

## 沖縄空手会館展示施設を中核とした文化観光拠点計画

## 沖縄空手会館展示施設を中核とした文化観光拠点計画 目次

1. 実施体制	4
2. 事務の実施体制	4
3. 基本的な方針	6
3-1. 現状分析	6
3-1-1. 主要な文化資源	6
3-1-2. 来訪客の動向	15
3-1-3. 他の文化資源保存活用施設との比較	20
3-2. 課題	22
3-3. 文化観光拠点施設としての機能強化に向けて取組を強化すべき事項 及び基本的な方向性	25
3-4. 地域における文化観光の推進への貢献	28
3-5. 文化の振興を起点とした、観光の振興、地域の活性化の好循環の創出	28
4. 目標	29
5. 目標の達成状況の評価	35
6. 文化資源保存活用施設	35
6-1. 主要な文化資源についての解説・紹介の状況	35
6-1-1. 現状の取組	35
6-1-2. 本計画における取組	36
6-2. 施行規則第1条第2項第1号の文化観光推進事業者との連携	36
6-2-1. 現状の取組	36

6-2-2. 本計画における取組	37
6-3. 施行規則第1条第2項第2号の文化観光推進事業者との連携	37
6-3-1. 現状の取組	37
6-3-2. 本計画における取組	37
7. 文化観光拠点施設機能強化事業	38
7-1. 事業の内容	38
7-1-1. 文化資源の魅力の増進に関する事業	38
7-1-2. 情報通信技術を活用した展示、外国語による情報の提供その他の 国内外からの観光旅客が文化についての理解を深めることに資する 措置に関する事業	42
7-1-3. 国内外からの観光旅客の移動の利便の増進その他の文化資源保存活 用施設の利用に係る文化観光に関する利便の増進に関する事業	44
7-1-4. 文化資源に関する工芸品、食品その他の物品の販売又は提供に関 する事業	45
7-1-5. 国内外における文化資源保存活用施設の宣伝に関する事業	46
7-1-6. 7-1-1～7-1-5の事業に必要な施設又は設備の整備に関する事業	47
7-2. 特別の措置に関する事項	49
7-2-1. 必要とする特例措置の内容	49
7-3. 必要な資金の額及び調達方法	49
8. 計画期間	50

## 沖縄空手会館展示施設を中核とした文化観光拠点計画

### 1. 実施体制

文化資源保存 活用施設	名称	沖縄空手会館	所在地	沖縄県豊見城市豊見城 854-1
申請者 文化資源保存活用 施設の設置者	名称	沖縄県	所在地	沖縄県那覇市泉崎 1-2-2
	代表者	知事 玉城 康裕		
	地方公共 団体内部 の役割	<b>【主担当部署】</b> 文化観光スポーツ部 空手振興課（文化振興部門） <b>【連携する部署】</b> 文化観光スポーツ部 観光振興課（観光振興部門）		
共同申請者① 文化観光推進 事業者	名称	一般社団法人 沖縄伝統 空手道振興会	所在地	沖縄県豊見城市字豊見城 854-1
	代表者	理事長 新垣邦男		
	役割	施行規則第1条第2項第2号の文化観光推進事業者		
共同申請者② 文化観光推進 事業者	名称	一般財団法人 沖縄観光 コンベンションビューロ ー（DMO、旧海軍司令 部壕（海軍壕公園）指定 管理者）	所在地	沖縄県那覇市字小禄 1831 番地 沖縄産業支援セ ンター2階
	代表者	会長 下地芳郎		
	役割	施行規則第1条第2項第1号及び第2号の文化観光推進事業者		
共同申請者③ 文化観光推進 事業者	名称	沖縄空手振興ビジョン推 進パートナーズ（沖縄空 手会館指定管理者）	所在地	沖縄県豊見城市字豊見城 854-1
	代表者	代表企業 OTS MICE MA NE JIMENNT(株) 代表取締役 玉城国博		
	役割	施行規則第1条第2項第2号の文化観光推進事業者		
共同申請者④ 文化観光推進 事業者	名称	おきなわ工芸の杜共同企 業体（おきなわ工芸の 杜指定管理者）	所在地	沖縄県豊見城市字豊見城 1114-1
	代表者	代表企業 株式会社TLO 代表取締役社長 玉城昇		

	役割	施行規則第1条第2項第2号の文化観光推進事業者		
共同申請者③ 文化観光推進 事業者	名称	沖縄JTB株式会社	所在地	沖縄県那覇市旭町112番地
	代表者	代表取締役 社長執行役員 桂原 耕一		
	役割	施行規則第1条第2項第2号の文化観光推進事業者		

## 2. 事務の実施体制

### 1 文化資源保存活用施設の設置者の役割

#### (1) 主担当部署

沖縄県文化観光スポーツ部空手振興課は、文化資源保存活用施設の設置者及び責任者として文化観光拠点計画の予算及び計画策定の事務局となり、庁内の観光部署の助言・指導を受けて計画を策定し、文化観光推進拠点事業者と共同して事業を実施する。各年度の事業評価については、部内の観光所管課及び文化所管課、沖縄観光コンベンションビューロー等で構成する沖縄県文化観光拠点推進委員会を設置（事務局：空手振興課）し、事業実績を元に実施状況を評価する。

#### (2) 連携部署

沖縄県文化観光スポーツ部観光振興課は、文化観光振興に関する関係者間の連携体制の整備、情報の収集、整理及び分析を行い、主担当部署である空手振興課と連携して事業方針の策定並びに事業の実施状況の評価を行う。

### 2 共同申請者（文化観光推進事業者）の役割

#### (1) 一般財団法人 沖縄観光コンベンションビューロー（DMO）

文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光の推進に関する法律施行規則第1条第2項第2号に定める文化観光推進事業者として、国内外の観光需要のトレンド情報を空手振興課に提供し、賛助会員である観光関連事業者への周知広報を行うとともに、空手振興課が事務局を担う沖縄県文化観光拠点推進委員会の委員として事業評価を行う。

#### (2) 一般社団法人 沖縄伝統空手道振興会、沖縄空手振興ビジョン推進パートナーズ（沖縄空手会館指定管理者）、沖縄観光コンベンションビューロー（旧海軍司令部壕（海軍壕公園）指定管理者）、おきなわ工芸の杜共同企業体（おきなわ工芸の杜指定管理者）、沖縄JTB株式会社

文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光の推進に関する法律施行規則第1条第2項第2号に定める文化観光推進事業者として、文化体験プログラム、賑わい作りイベント、国内外への広報等に関する企画及び実施を行う。

### 3 共同申請者以外の多様な団体の参画

本計画の実施に当たり、地域の関係者が幅広く参画できるよう、既存の「豊見城城址跡地利活用ワーキンググループ」との情報共有や意見交換を行う。

<構成>

【沖 縄 県】 文化観光スポーツ部空手振興課・商工労働部ものづくり振興課

【豊 見 城 市】 総務企画部商工観光課・経済建設部公園緑地課・都市計画部都市計画課・教育委員会教育部文化課、

【自 治 会】 豊見城市字豊見城自治会

【民間事業者】 （一社）豊見城市観光協会、（一社）沖縄伝統空手道振興課、沖縄空手会館指定管理者、海軍壕公園指定管理者、おきなわ工芸の杜指定管理者

### 3. 基本的な方針

#### 3-1. 現状分析

##### 3-1-1. 主要な文化資源

###### 1 沖縄空手と世界との関係

現在、世界 190 以上の国と地域に約 1 億 3 千万人も空手愛好家がいるといわれ、空手は世界的に普及した日本の武道である。また、空手は、海外の書籍や映画等でもそのまま「Karate」で表現されることから、武道家のみならず一般にも広く知られており、その発祥の地は、沖縄とされている。

沖縄で発祥した「空手」は、この地に古くから伝わる「手（てい）」という武術が、中国や日本、東南アジア等の交流の中で形作られ、琉球国時代に士族の文化として発展した。近代以降、沖縄の海外移民政策に伴うハワイ・北米・南米等への普及、空手家の東京・関西の大学を中心とした本土への普及、沖縄及び本土の空手家のヨーロッパをはじめ世界各国への普及、戦後のアメリカ駐留軍の帰任に伴う北米等への普及など、空手は複数の経路で沖縄から世界へ伝播し、現在に至っている。

沖縄県では、美しい自然や温暖な気候、健康長寿の食文化などの観光資源とともに、現代まで沖縄県民の生活の中で守られている伝統的な空手を有力な文化資源として観光に活用し、空手の歴史の探求や技の原点回帰、初心者向けの空手講座など、発祥の地での特別な体験を提供する「空手ツーリズム」を推進している。

空手発祥の地は、世界に広がる空手愛好家にとって唯一無二の特別な場所である。また、空手経験のない一般の観光客にとっても、空手愛好家が憧れる空手の聖地を訪れて空手の歴史を探求し、心身の健康、美容、護身術など空手の実利的な魅力を味わい、平和を希求する空手の普遍的な理念に触れることは、その土地に行かないと味わえない貴重な体験であるとともに、国内外から訪れる旅行者が日本文化の多様性と奥深さを実感する機会となるものと思料される。

###### 2 琉球文化としての沖縄空手の発展

空手の発祥には諸説あるが、12 世紀から 15 世紀、沖縄の各地で按司（豪族）が争っていた三山時代の素手の武術等が、周辺諸国との交流を通じて独自の文化として発展したものといわれている。先人達は、相手の攻撃をかわす受け技や、受けと同時に相手の急所に破壊的な反撃を加える突きや蹴りなどの精緻な技を追求し、一人でも繰り返し鍛錬できるよう「型」として体系化するとともに、瞬発的に力を発揮できるよう独自の鍛錬法を創り上げた。

その後、沖縄が首里城を中心とする琉球国時代に入ると、平和の中で武術が文化として成熟していく。首里王府に仕える士族は、漢詩・和歌・琉歌、儒教等の学問と併せて、空手や舞踊を嗜んだといわれている。また、中継貿易で栄えた琉球は、港の護衛や海外輸送時の襲撃に備え身を守る術を必要としたともいわれている。首里城を中心とする国の統治基盤が安定した琉球国時代に、高い教養を持つ文官である士族の階層が空手の担い手であったことが、空手の精緻な技と独自の鍛錬法、高い精神性などに影響し、後世において世界中に普及する文化としての要素を形成したと考えられる。また、人格形成や心身修養、護身などの目的で、師から弟子への口伝での教えの中で、「空手に先手なし」などの自ら攻撃しない平和を希求する理念や、「空手は礼に始まり礼に終わる」などに表される礼節を重んじる金言が生まれ、技とともに継承されている。

###### 3 琉球士族の文化の大衆化

廃琉置県を機に、身分を失った士族が地方に移住したこと、空手が学校教育へ導入されたことで、士族を中心に師から弟子に口伝で伝承されてきた空手は、県内全土に広がることとなる。

また、沖縄の空手家が本土の大学等で空手を普及することにより、武術としての空手は、安全性や競技性を加えたスポーツ武道として、新たな分野に発展し、ここから、空手は、伝統的な武術としての空手（以後、「沖縄空手」という。）と、近代的なスポーツ武道としての空手の2本柱で世界に普及していくこととなる。

士族の文化から大衆文化となった沖縄空手は、沖縄出身空手家の本土や世界での普及活動、海外移民政策、アメリカ駐留軍などの複数のルートで世界に広がった。

沖縄空手は、沖縄のアイデンティティを感じさせる地方の文化にとどまらず、競争や争いを目的とせず平和を希求する精神性、生涯続けることで深まる精緻な技の探求、年齢、性別、体格の差異を問わず、特別な場所や道具を必要としない実践的な護身術、空手の呼吸法や鍛錬で無心になる状態が「動禅」として精神の安定や感情の制御に役立つなど、普遍的な哲学と実利的な価値を持つ文化として世界の人々に受け入れられているものと考えられる。

このように、沖縄空手は、按司時代、琉球国時代（大交易時代）、廃琉置県、第二次世界大戦、米国統治、日本復帰の時代など、それぞれの時代を経て、様々な国や人との交流の中で重層的に発展し、失われることなく現代まで継承されてきた。今日では、県内に約360存在する「町道場」や「学校」、地域行事、祭り、結婚式などの祝いなど、沖縄県民の生活の中で継承されているほか、広く国内外で親しまれている。

#### 4 沖縄空手の歴史資料

空手は、近世まで師弟関係において口伝で密かに継承されてきており、空手発祥の地である沖縄でも、公的な機関が空手の歴史等を研究することはほとんどなかった。その理由としては、琉球国時代に文化の担い手であった士族の家譜（家系の公式な記録）には職業ではない空手は記載されないこと、空手の達人は「隠れ武士」として空手家であることを公にしない風潮があったこと、第二次世界大戦の戦禍で県内の多くの文書や写真等が失われたこと、博物館等において資料の価値を判断する専門家が少ないこと、著名な空手家のゆかりの品は弟子や道場が保有することが多かったことなどが考えられる。

沖縄県では、沖縄空手会館を建設するに当たり、資料収集に積極的に取り組み、空手に関する歴史資料や空手家の日記、武具、鍛錬具、書、空手着、厨子瓶等、空手に特化した貴重な資料約3万点を所有している。また、今後も、県外や海外で戦禍を逃れた資料の収集が期待される。

#### 5 文化的価値の保存・継承

沖縄県では、「沖縄の空手・古武術」を県指定無形文化財に位置付けており、平成9年度から現在までに合計20名の空手家を保持者として指定している。

#### 6 空手の技の原点回帰、健康長寿、沖縄文化体験を求める旅

2022年の東京オリンピックで空手が公式競技に採択され、世界には多くの競技空手の愛好家がいるといわれている。空手の流会派は多岐にわたるが、それぞれの師を遡ると全て沖縄の空手家に繋がる。

沖縄では、武術本来の身体操作に興味を持つ競技空手愛好家が世界中から沖縄の町道場を訪れており、道場は国際的な文化交流拠点となっている。

加えて、沖縄は世界で数少ない「ブルーゾーン」といわれる長寿地域であり、沖縄の空手家が高齢になっても現役で活躍している姿から、健康長寿のイメージに憧れ、または沖縄らしい文化体験を求めて、空手経験者以外の一般の観光客の「空手ツーリズム」への関心も高まっている。





<沖縄空手映像シアター>（映像 字幕日英併記、多言語の音声再生機器あり）

迫力ある 170 インチスクリーンで映像により空手の発祥から世界に普及する歴史や流派の歴史を紹介している。オリエンテーションとして最初に映像を見ることで、沖縄の歴史や空手を知らない方も理解を深めることができる。

- ・「空手 沖縄にはじまり、沖縄の心を世界に」（10分）
- ・「鍛える 究める 心を養う 沖縄空手の原点」（10分）
- ・「空手発祥の地 沖縄」（10分）

映像ナレーション：日本語・英語字幕の併記、多言語のナレーション  
音声再生機器（仏、西、露、独、中、伊、葡語、韓の8カ国語対応）



<展示パネル>

① 沖縄空手の発生と源流

見出し：琉球と大交易時代／沖縄空手のはじまり／文献に見る沖縄空手／琉球王国時代の格闘術

【冊子】『大島筆記』、『沖縄伝武備誌(志)』（冊子）

【写真】『南島雑話』、攻防の絵、「組踊」『尚家文書 31』より、ブサガナシーの絵、薬草の絵



◆展示のみどころ

『大島筆記』（1763年）の空手の起源に関する記述（公相君）

『沖縄伝武備誌』

- ・「百浦添欄干之銘」（1509年尚真王代）
- ・『球陽』（琉球の正史で22巻と付巻4巻で構成。）外巻に『遺老説伝』（1743-45）
- ・名護親方程順則籠文（1663～1734）その詩に「如何に手や學術の道に秀でていても、日々の振る舞いや人格に勝るものはない。」と詠んでいる
- ・土佐藩士の戸部が大島沖で遭難した琉球人を尋問した記録『大島筆記』（1763）
- ・名越佐源太『南島雑話』（1880年～1885の遠島中の見聞記）  
唐手の構えで巻わらをついているスケッチ、地面に置かれた木板で拳を鍛えている。
- ・島袋全発（1888～1953）の著書  
尚泰王の即位の翌年（1867）3月24日「御茶屋御殿（うちややうどうん）」で武術が行われた。

## ② 沖縄空手の歴史「手（てい）」の時代

見出し：沖縄空手の源流”手（てい）”／”手（てい）の三系統”と”上地流”



- 【巻物・複製】「松村宗棍の遺訓」、「糸洲安恒 唐手十ヶ條」
- 【掛軸・複製】松村宗棍の書（巻物・複製）【掛軸】謝花雲石の書
- 【冊子】「衛姓家譜」、『冊定 紀効新書』修武館会則（
- 【文書】1975年劉衛流空手大会プログラム、「剛柔流拳法」、「空手道概説」、パスポートほか
- 【写真】宮城長順ほか沖縄の名士、上地完文、富名腰義珍「空手二十箇条ほか
- 【図書】『琉球拳法 唐手』、大日本雄弁講談社『キング』『空手道大観』ほか
- 【看板・木製】「少林流空手研究書」
- 【モノ】上地完英の道着、眼鏡、映画ポスター、チラシ、漫画 等

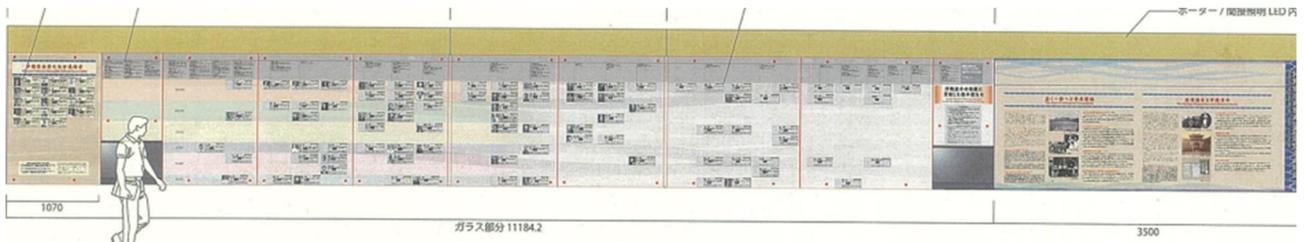


### ◆展示のみどころ

松村宗昆（棍）（1806年～1894）の遺訓、糸洲安恒（1831年～1915年）の空手十カ条

## ③ 沖縄空手の歴史「唐手・空手の時代」

見出し：琉球処分と沖縄空手／広く一般への普及開始／沖縄空手の発展に貢献した空手家たち／年表  
 沖縄空手では道統（系図）を重視している。高名な空手家の氏名、流派、写真・生没年等の人物情報が一度に体系的に確認できる資料は他にないため、空手のルーツを知る上で貴重な資料である。



## ④ 古武術

見出し：古武術のはじまり／古武術の系譜

沖縄空手では、生活の道具を武具として用いる技も伝承されている。動きはコンパクトで空手同様、受けが中心の護身の術である。黒い空手着が特徴的で、近年は海外でも古武術の愛好家が増加。



## ⑤ 沖縄空手と古武術の武具・鍛錬具・鍛錬方法

海外の警察で取り入れていたサイドハンドルバーの元となったトンファーや、映画で馴染みのあるヌンチャクなどの武具があり、同じ武具でも形や大きさ、素材に違いがある。映像では空手家の武具を使った動きを見ることができ、空手愛好家でなくても楽しめる内容となっている。



【武具】 ティンバー・トンファー・サイ・ヌンチャク・スルチン・ダブルスルチン・テッチュウ・テッコウ・テイテツ・平信賢のヌンチャク・又吉真豊、平信賢、安里亀栄、知念正美の棒、エーク、三節棍、三尺棒【写真】 空手家の写真



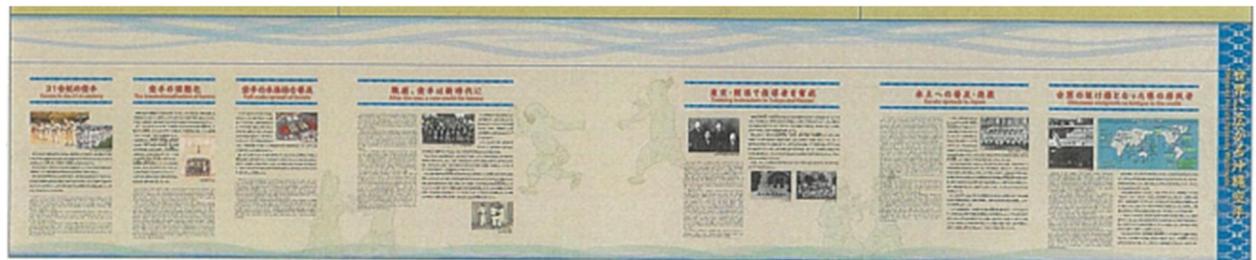
鍛錬具は沖縄独特のものである。身体を鍛える負荷をかけるもので、このうち、鉄ゲタ、巻上（まちゃーぎ）、瓶（かーみ）は体験コーナーで重さを体感することができる。

【鍛錬具】 巻揚、チーシ、サーシ、カ石、仲里周五郎の鉄ゲタ、仲里周五郎の鉄巻、サンチンガーミ、宮城長順道場のサンチンガーミ、金剛圈、【写真】 空手家の写真



## ⑥ 世界に広がる沖縄空手

見出し：世界の架け橋となった県の移民者／本土への普及・発展／東京・関西で指導者を育成／戦後、空手は新時代に／空手の本格的な普及／空手の国際化／21世紀の空手



アルゼンチン沖縄県人会の新聞報道、フランス・ポーランド・日本・アルゼンチン・アメリカ・インド 雑誌、中学・高校・大学空手部、県外大学空手部、沖縄空手家の写真、トロフィー、サイ

### <沖縄空手の体感コーナー（体験装置）> 日英併記

- ・ チャレンジ突き 突きでバーチャルのろうそくの火を消す人気のゲーム  
3回以内に消すことができれば沖縄方言で「シタイヒャー（よくやった）合格」と音声が出る。
- ・ 鍛錬 鉄ゲタ (2.5Kg、5Kg) 空手家が足を鍛えるために履いていた鉄下駄の重さを体感できる。
- ・ 鍛錬 マチャーギ (5Kg、10Kg) 紐でつられたおもりを両手で巻き上げて重さを体感できる。
- ・ 鍛錬 カーミ (4Kg、8Kg、12Kg) 肩を落とし握力を鍛えるための瓶の重さを体感できる。
- ・ 3D空手スコープ 空手家が間近で型を演武しているように感じられる。



### <企画展示室>

#### 展示パネル 日英併記

〔過去の企画展のテーマ（平成28年度の共用開始以降）〕

H28「空手座談会」、H29「上地流 剛柔流」、H30「剛柔流開祖 宮城長順」、R元「沖縄空手と学校教育Ⅰ 空手を伝え、広める！—近代空手の教師たち—」、R2「沖縄空手と学校教育Ⅱ 沖縄空手大學波及。—若者の心を捉えた新武術—」、R3「沖縄空手、世界へ」、R4「戦後・復帰後の沖縄空手」（本土復帰50周年記念企画）R5「欧米人のみた琉球・沖縄の武術」



### <資料閲覧室、検索コーナー>

空手関係、武術関係、郷土関係の図書約5,200冊、DVD約350を所蔵している。空手の書籍、雑誌、大会プログラム、古い国内外の新聞記事等を直接手に取って見ることが出来る。利用無料。館外持ち出しは不可。



### <展示施設内のレストラン、特別道場前庭の活用>

「特別道場」は沖縄らしい赤瓦の朱塗りの建物で琉球国文化を想起させる。

展示観覧チケット付きのレンタル空手着を着た瓦割り体験、ドローンによる空撮、夜間には高台で風光明媚な立地を活かし、ケータリングやバーベキューなどのユニークメニューとして活用できる。



沖繩空手会館  
Instagram @okinokaratedokkan  
Facebook @karateokkan

【体験プラン内容！】  
空手の歴史が学べる  
①資料室見学  
②空手着レンタル  
③認定書交付

お持ちのカメラで撮影OK  
（※撮影の際は事前の記入が必要となります）

**瓦割り体験**  
①11:00～ ②14:00～

おひとり様 2,000円（税込）  
※お一人様予約枠は3回  
対象年齢：15歳以上（高校生以上）※15歳未満は要保護  
※体験の際には事前の記入が必要となります

## (2) 沖縄空手会館から徒歩圏内の連携施設について

沖縄空手会館の徒歩圏内には、伝統工芸品を展示し工芸品の制作体験ができる「おきなわ工芸の杜」、沖縄戦の歴史を伝える戦跡展示施設である「旧海軍司令部壕（海軍壕公園）」などがある。

「おきなわ工芸の杜」は、琉球国時代の伝統文化として空手との共通性があり、同施設で開催されるクラフト展には県民や観光客などが多くの工芸ファンが来場する。

また、「旧海軍司令部壕（海軍壕公園）」は、琉球国時代には中国や薩摩からの船の入港を知らせる「ヒバンムイ」があった場所で、第二次世界大戦中には旧海軍司令部壕が置かれた。現在は、修学旅行生や外国人の軍関係者等が訪れ、コロナ前の平成31年度で13万6千人が入場している。

「おきなわ工芸の杜」で「琉球国」時代から継承される伝統的な染織・陶器・漆器、銀細工などの文化に触れ、「旧海軍司令部壕（海軍壕公園）」では第二次世界大戦で上陸戦となった歴史を学ぶことで、沖縄空手が発展した背景をより深く理解することができる。

具体的には、家族、日本文化に関心のある外国人、戦地後を慰問する外国人軍人・軍OBを対象に、空手体験、工芸体験、平和学習の周遊ルートのご案内や共通プログラムの提供を実施したい。

これらの3施設は、ともに、バス・モノレールでの利便性が低いことが共通の課題であるが、空港から近いことや、雨天時にも観光できること、都市にあって緑が豊かなエリアを自転車や徒歩で周遊し楽しめることなどの魅力をPRするとともに、これらの施設の特性を生かして着地整備に取り組み、連携して相互送客を図りたい。



引用元：Google社「Google マップ」

### ● おきなわ工芸の杜（豊見城城址敷地内）

<https://okinawa-kougeinomori.jp/>

空手道着等の藍染で空手会館と連携している。施設内に展示室、ショップ及び工芸体験あり。

### ● 旧海軍司令部壕（海軍壕公園）（豊見城市内）

<https://kaigungou.ocvb.or.jp/park/>

沖縄から世界に向けた平和を発信する戦跡施設として観光客にも親しまれている。

施設内に展示施設、ショップがあり、隣接する海軍壕公園には子ども向けの遊具がある。

## (3) 沖縄空手会館と琉球の歴史や文化でつながる施設について

空手を育んだ琉球国文化を象徴する「首里城公園」のほか、首里城の周辺には空手にゆかりのある場所が点在している。さらに、首里城のある那覇市内には、近世の高名な空手家、松村宗昆（棍）が番人をしてきた「識名園」、流派の開祖等の顕彰碑や墓があり、発祥の地ならではの歴史的場所を空手聖地巡礼として体験することができる。

また、空手会館から近い那覇市や浦添市の博物館施設及び文化施設には、「沖縄県立博物館・美術館」、「那覇市歴史博物館」、「那覇市壺屋焼物博物館」、「国立劇場おきなわ」などがあり、これらの文化施設の展示や催事と沖縄空手会館を関連付けるストーリーの作成により、空手が発展した歴史的背景をより深く理解することができる。

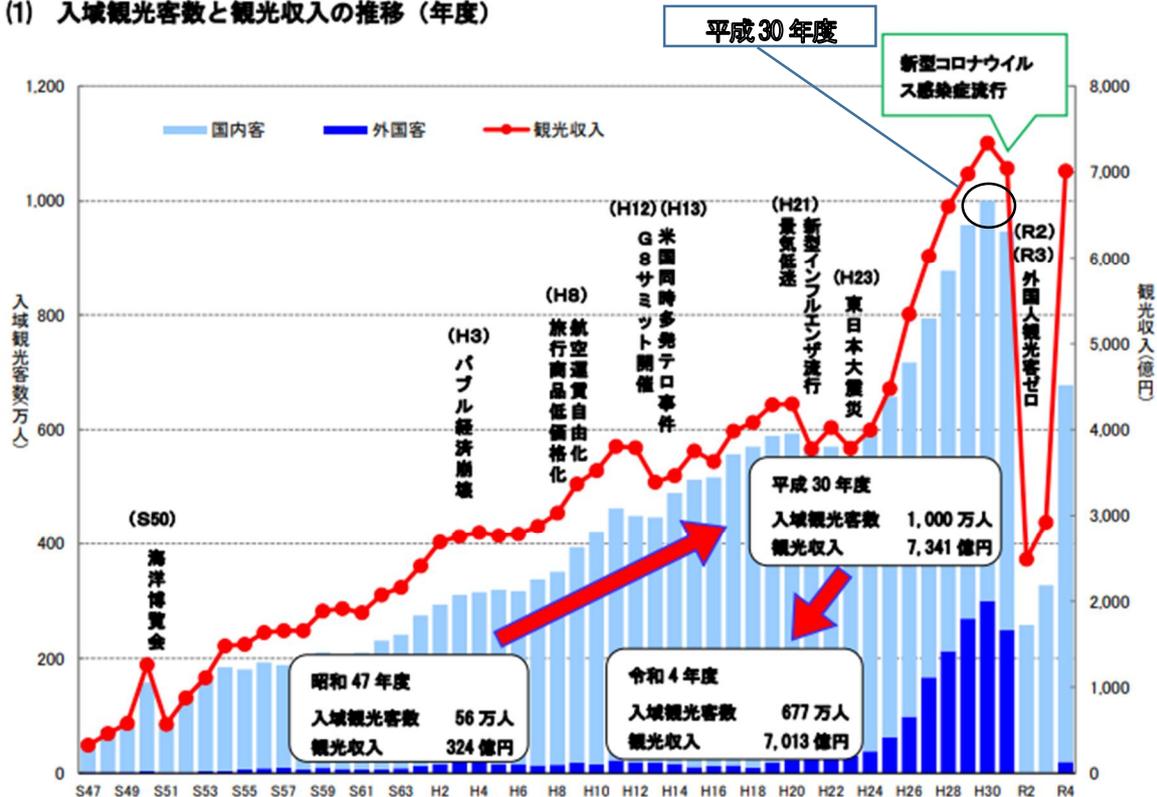
- 首里城公園（那覇市内）  
<https://oki-park.jp/shurijo/>
- 識名園（那覇市内）  
<https://www.city.naha.okinawa.jp/kankou/bunkazai/shikinaen.html>
- 沖縄県立博物館・美術館（那覇市内）  
<https://okimu.jp/>
- 那覇市歴史博物館（那覇市内）  
<https://www.city.naha.okinawa.jp/shisetsu/bunkasisetu/hakubutukan.html>
- 那覇市壺屋焼物博物館（那覇市内）  
<https://www.city.naha.okinawa.jp/shisetsu/bunkasisetu/tuboyayakimono.html>
- 国立劇場おきなわ（浦添市内）  
<https://www.nt-okinawa.or.jp/>

### 3-1-2. 来訪客の動向

#### 1 沖縄県の観光客の動向

沖縄県の入域観光客数は、コロナ禍前の平成30年度に1,004.3万人（国内700.3万人、外国人300万人）と過去最高となった。

##### (1) 入域観光客数と観光収入の推移（年度）



令和5年度は8,532.6万人（国内7,269.1万人、海外1,263.5万人）と、国内需要は令和5年から全国旅行支援や修学旅行等の回復等によりこれまで最多であった平成30年度を上回り、海外需要も令和4年10月に水際対策が大幅に緩和されて以降、航空路線（アジアの近隣都市からの直行便）やクルーズ船の再開が続いたことにより回復傾向にある。

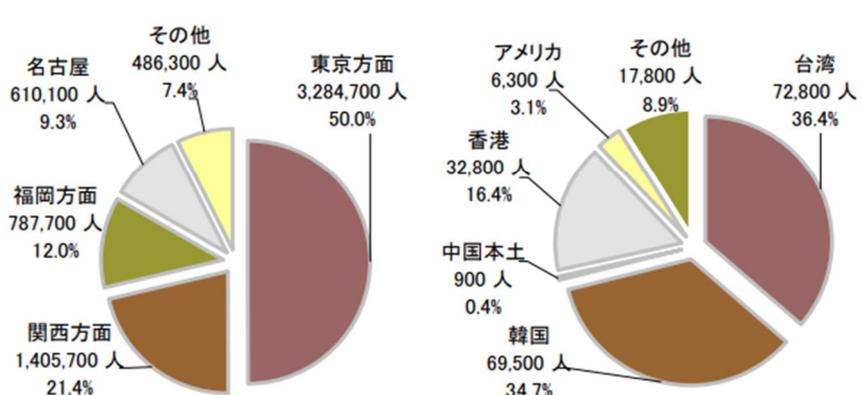
令和6年度も航空路線の再開やクルーズ船寄港スケジュールが令和5年を上回る回数が見込まれ、円安による効果も期待できることから更なる回復が見込まれる。

沖縄県への県外からの来訪者は、東京方面が過半数を占めており、以下、関西、福岡、名古屋方面が多くなっている。

また、外国からの来訪者は、台湾、韓国、中国本土、香港、アメリカの順となっている。

※ ただし、外国については沖縄への直行便で入国する者を対象としている。

【図3】地域別・国籍別入域観光客構成比

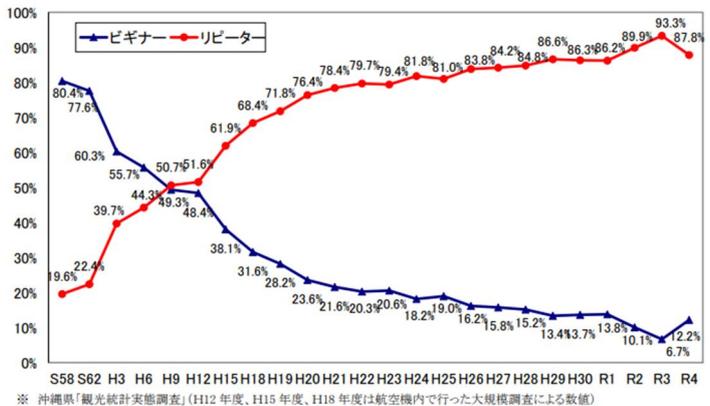


また、令和4年度の平均滞在日数は、国内客で4.25日、外国空路客（本県に直行便で入国する空路客に限る）で5.26日と、外国空路客が1.01日長くなっている。一人当たり観光消費単価は103,706円で過去最高となった。内訳は、国内客が103,922円、外国空路客が93,497円とコロナ禍前の傾向と逆転が見られる。逆転の要因については精査が必要である。

	単位	H30	R1	R2	R3	R4
入域観光客数総数 (A=A1+A2+A3)	人	10,004,300	9,469,200	2,583,600	3,274,300	6,774,600
国内客(A1)	人	7,003,500	6,978,800	2,583,600	3,274,300	6,574,500
外国空路客(A2)	人	1,803,700	1,427,200	0	0	187,000
外国海路客(A3)	人	1,197,100	1,063,200	0	0	13,100
外国人合算(A4=A2+A3)	人	3,000,800	2,490,400	0	0	200,100
平均滞在日数 (D=[(A1*D1)+(A2*D2)+(A3*D3)]/A)	日	3.59	3.70	4.17	4.42	4.25
国内客(D1)	日	3.73	3.77	4.17	4.42	4.23
外国空路客(D2)	日	4.77	5.35	—	—	5.26
外国海路客(D3=1)	日	1.00	1.00	—	—	1.00
人泊数(E=E1+E2)	人泊	25,896,625	25,522,855	8,185,735	11,198,106	22,032,255
国内客(E1=A1*[D1-1])	人泊	19,088,877	19,321,281	8,185,735	11,198,106	21,235,635
外国空路客(E2=A2*[D2-1])	人泊	6,807,748	6,201,574	—	—	796,620
外国海路客(E3=0)	人泊	0	0	—	—	0
観光収入	百万円	734,056	704,745	248,500	292,400	701,341
一人当たり観光消費単価	円	73,374	74,425	99,956	91,555	103,706
国内客	円	76,759	76,987	99,956	91,555	103,922
外国空路客	円	90,119	102,528	—	—	93,497
外国海路客	円	28,343	19,886	—	—	—

国内旅行客のリピーター率は、昭和58年以降、年々上昇し、平成29年度以降は80%後半で推移していたが、コロナ禍以降はさらに増加し、令和3年度は初めて90%を超えたものの、令和4年度は減少に転じている。

【図1】初回来訪率とリピーター率の推移（年度）

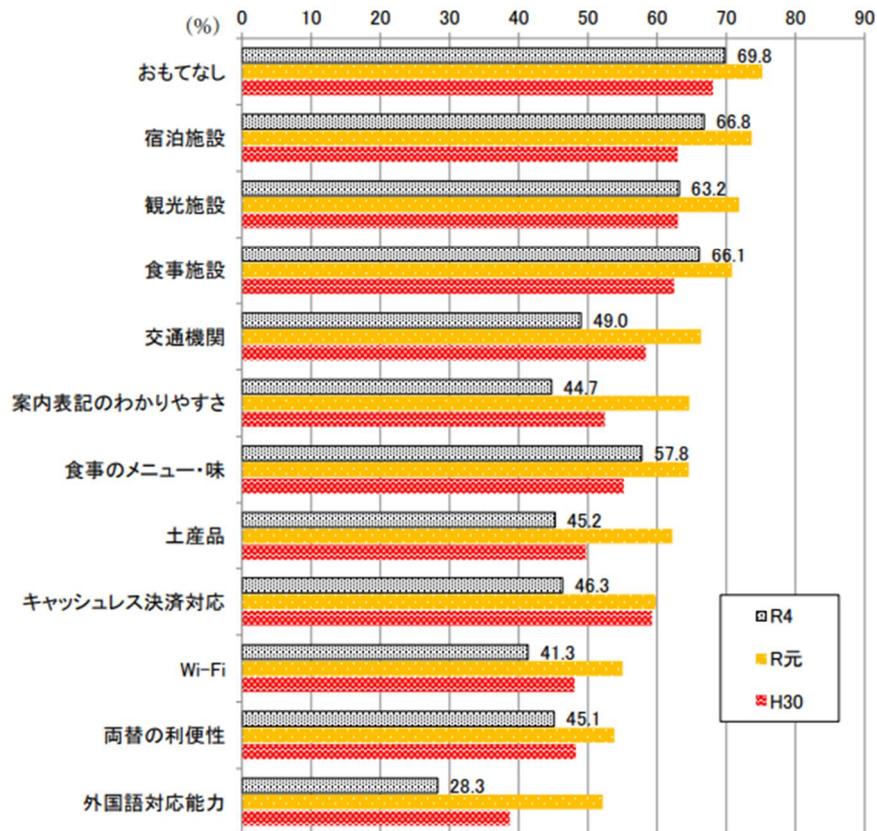


令和4年度調査（令和5年1-3月期調査）においては、外国空路客では全体の36.1%がリピーターとなっている。リピーター率が最も高いのは、台湾（49.4%）となっている。旅行形態は、全ての国・地域において、「個別手配」が主となっている。平均泊数は、全体では4.26泊で、最も多いのは、タイ（11泊）であり、最も少ないのは韓国（3.67泊）となっている。

空路の活動内容では、「都市観光、街歩き（79.5%）」の割合が最も高くなった。他の主な活動内容としては、「ショッピング（73.2%）」、「自然・景勝地観光（73.2%）」、「沖縄料理を楽しむ（66.4%）」、「歴史的・伝統的な景観、旧跡観光（59.1%）」となっている。（複数回答）

空路客の沖縄旅行の満足度（項目別、満足と回答した割合）は、「おもてなし（69.8%）」の割合が最も高く、次いで、「宿泊施設（66.8%）」、「食事施設（66.1%）」となっている。（複数回答）

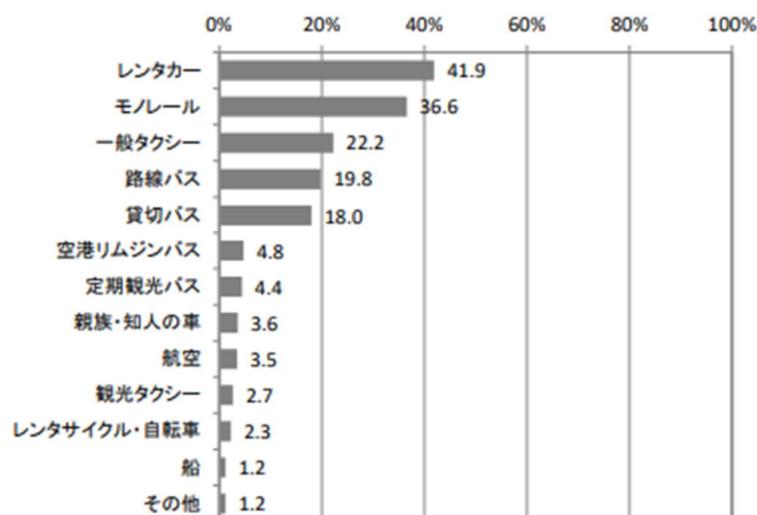
沖縄旅行の満足度(項目別、“満足”と回答した割合)  
【図 13】【空路・全体】



外国旅行者沖縄旅行の満足度では、「案内表記のわかりやすさ」、「土産品」、「キャッシュレス決済対応」、「Wi-Fi」、「両替の利便性」、「外国語対応能力」の項目の満足度は低くなっている。

外国旅行者が利用した交通機関は、レンタカーが最も多く、モノレール、一般タクシー、路線バス、貸し切りバスの順となっている。(複数回答)

図表 1-3 交通機関 (複数回答)



今後の沖縄県の方針としては、重点市場(台湾、香港、韓国、中国)や戦略開拓市場(シンガポール、タイ、ベトナム、インドネシア、フィリピン、ベトナム)を中心とした誘客に取組みつつ、新規開拓市場(欧州、北米、豪州)及び潜在市場(インド、中東、北欧)の需要動向やネットワーク構築を検討している。

本県観光の主な取組としては、令和5年3月に選定された「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくりモデル観光地」として高付加価値インバウンドを対象としたコンテンツ造成及び受入体制の強化をはじめ、沖縄の豊かな自然環境、伝統文化、歴史等のソフトパワーを生かして外国人富裕層をターゲットとした「アドベンチャーツーリズム」、沖縄の豊かな食文化や伝統工芸等の地域資源を活用した「琉球ガストロミーの推進」などを行っていくこととしている。

## 2 豊見城市の観光動向について

### (1) 豊見城市の状況

市域面積 19.19k m<sup>2</sup>、人口 65,940 人、

市内ホテル・旅館・民宿等数 33 件 581 室、収容人数 1,288 人

(那覇市内：459 件 22,476 室 収容人数 50,937 人)

豊見城市には、市の名称の由来ともなり、三山時代に南山王となる汪応祖（おうおうそ又はわんおうそ）が居城した「豊見城グスク」をはじめ、平良グスク、保栄茂グスク、長嶺グスク、瀬長グスクが存在し、御嶽やカー（湧き水）、拝所等の文化財も数多くある。

観光振興については、那覇空港に隣接するアクセス性の良さを背景として、市の西側エリアの豊崎地区における大規模商業施設や豊崎美らSUN（とよさきちゅらさん）ビーチ等の立地に加え、近年は瀬長島や、中央エリアの沖縄空手会館、おきなわ工芸の杜等が観光拠点として活用されている。一方、市における観光客の急増においては、西海岸地域への偏りが指摘されていたほか、海岸線の空港に向かう道路の混雑等のオーバーツーリズムの問題も指摘されていたことから、地域による偏在の解消とともに、市民生活・自然環境・景観等と観光振興の両立も今後の課題とされている。市の第5次豊見城市総合計画（令和3年度～令和12年度）においては、「リゾート観光のみならず、地域特性を活かした「エコツーリズム」「健康・ウェルネス・医療」「スポーツ」「文化」「ワーケーション」など新たなツーリズムの検討及び高付加価値化を推進。これにあたっては、ハーリー体験や沖縄空手会館、おきなわ工芸の杜などの歴史や伝統文化を楽しむ観光周遊等も含めた観光協会との連携を推進することとしている。

## 3 沖縄空手会館展示施設の状況及び今後の見込み

沖縄空手会館は、令和6年3月に8周年を迎え、世界97か国の人々が訪れ、これまでに延べ56万人の利用者を数えている。

このうち、展示施設の来館者数の延べ人数は59,891人（うち、統計のない平成29年度を除く海外からの来訪者の延べ人数は9,185人）となっており、共用開始年度直後の16,207人をピークに、年々観覧者数が減少しており、特に令和2年度及び3年度はコロナ禍の影響を受け激減した。

	実績値(人)							
	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	合計
沖縄空手会館利用者 (①+②)	66,730	119,140	94,561	32,965	74,535	68,630	104,203	560,764
①道場施設利用者	50,523	105,160	83,572	30,468	71,255	63,243	96,652	500,873
②展示施設観覧者	16,207	13,980	10,989	2,497	3,280	5,387	7,551	59,891
(うち外国人の観覧者)	0	2,591	3,042	68	47	707	2,730	9,185

第6次沖縄県観光振興基本計画（令和4年度に策定）では、令和6年度には沖縄県を訪れる観光客数がコロナ禍前の水準に回復すると見込んでおり、同様の考えから、第2期沖縄空手振興ビジョンロードマップ（令和4年度策定）における沖縄空手会館展示施設の来館者数も、令和6年度にはコロナ禍前の平成31年度の観覧者数10,989人とほぼ同数の11,000人に回復するものと見込んでいる。

同ロードマップにおいては、令和9年度の観覧者数を16,300人と見込んでいたが、本計画の実施に

より、展示施設の魅力増加、体験メニューやユニークベニューを活用した屋外ディナー（天空の宴）や夜間・早朝のイベントと組み合わせた観覧チケットの販売開発等により、毎年約15%の観覧者増を見込み、10年後の令和15年度には現在の令和5年度の7,551名の4.3倍となる32,500名まで伸ばしていきたいと考えている。

このうち、海外からの来訪者については、観覧者数の25%程度を目標に設定し、令和6年度に2,750名、令和10年度には8,125名を見込んでいる。

#### 4 沖縄空手会館のターゲットについて

第2期沖縄空手振興ビジョンロードマップにおいて、県は、「今後も国内外の空手愛好家、観光客等の来訪意欲を高め、歴史や精神性、精緻な技等沖縄空手の本質に触れることができる空手ツーリズムを推進していく。具体的に、道場やセミナー等での稽古を目的に来訪する国内外の空手愛好家（ヘビー層）には、沖縄独自の伝統文化や自然豊かな沖縄の観光と組み合わせた空手修行ツーリズムや各流派の空手家や縁の地を巡るルーツツーリズム、交流を目的とした国内合宿の誘致等を推進する。また、観光客・修学旅行生等（ライト層）には空手体験と演武鑑賞空手文化ツーリズム）等それぞれの対象に合った旅行商品の造成、体験プログラム、プロモーション等を実施するなど、県及び振興会、空手関係者、観光業界が連携して取り組む」としている。

##### (1) 国内外のヘビー層（空手愛好家）の動向

コロナ禍後、海外及び県外の空手愛好家が沖縄県に稽古に来る団体が増加している。県内の一般的な観光地の主な外国人は、中国、台湾、香港、韓国等、直行便がある近隣のアジア諸国が占めるが、沖縄空手会館については、北米、南米、オーストラリア、欧州、アフリカ、インド、その他アジア等、世界中から愛好家が訪れている。

##### (2) 国内外のライト層（観光客、企業研修等の来訪者）の動向

沖縄空手会館への観光客・ライト層の動向は、現在、沖縄空手会館で提供している空手未経験者に向けた沖縄空手プログラムの開催、瓦割り体験、空手演武鑑賞等により需要が伸びてきている。

本計画においては、沖縄空手会館での国内外のライト層をターゲットとし、プログラム商品や広報の充実により来館者を更に広げていきたいと考えている。

	実績値			
		R 4	R 5	合計
空手体験プログラム	件数	6	27	33
	人数	9	364	373
瓦割体験（展示施設セット）	件数	38	78	116
	人数	109	174	283

#### ア 空手体験プログラムの状況と展望

現在、国内外のツアー参加者が利用する有料プランがあり、令和5年度は、香港からの修学旅行生170名が参加するなど、国外からの利用も増えてきている。県外の旅行社の企画ツアーの件数も増加してきており、国内の旅行博でのPR等により更なる増加が見込まれる。

現在のプログラム内容は、参加者の希望に合わせて簡易な「普及型」などを行うことが多いが、今後は、歴史や文化的価値の理解が深まる講座や、突きや蹴りなどの基本の動きを中心としたプログラム、呼吸法・姿勢・体幹に着目したプログラムなど、日常に取り入れやすいメニューを造成することで、健康志向、美容に関心の高い一般層の需要拡大を図りたい。

また、沖縄県が空手イベントで実施している、空手着を着て写真撮影ができるコーナーは、空手経験のない若年層にも人気があり、沖縄空手会館の沖縄訪問及び文化体験記念としてレンタル空手着で写真撮影をする商品の造成を検討したい。

#### イ 瓦割体験（展示施設観覧券セット）の状況

主に個人旅行で少人数のグループ旅行や家族が体験している。沖縄らしい赤瓦屋根の特別道場の前庭で、レンタル空手着を着て瓦割りを行うもので、女性や子どもにも人気がある。件数、利用者数ともに伸びており、観覧者の増加に繋がる。

今後は、ツアー客など大人数での参加に向け、レンタル用の空手着の枚数を増やすとともに、大きなサイズの空手着を揃える必要がある。

#### ウ 沖縄空手演武鑑賞の状況と展望

令和5年度から、沖縄空手会館において、県外、海外からの経済団体などから演武鑑賞の手配を受けている。琉球国時代には琉球舞踊とともに中国からの来客に披露したほか、近世には皇室や著名な文化人にも披露された記録が残っている。このような歴史も踏まえ、沖縄の風土に育まれた空手の文化的価値を解説し、他の伝統芸能との類似点などがわかるような演出を行うことで、沖縄空手会館で提供する文化体験の商品の一つとして定番化できるよう、定期的な鑑賞メニューの造成を検討していきたい。

空手体験プログラムと瓦割体験の合計は、令和5年度には105件、538人が参加したが、さらにメニューを充実させることにより、令和15年には2倍以上となる215件、1,200人を目指す。

### 3-1-3. 他の文化資源保存活用施設との比較

「沖縄空手会館」のほか、沖縄県内で空手体験が可能な主な観光施設には、「琉球村」（恩納村）、「むら咲き村」（読谷村）があり、これら2つの施設との比較は次のとおりである。

- (1) 観光客の活動カテゴリーとしては、琉球村やむら咲むらは「文化体験」と「歴史的・伝統的な景観」の組み合わせであり、更に、西海岸ビーチリゾートの「自然・景勝地観光」との一体化により観光コースとして定着している。沖縄空手会館は、那覇空港や那覇港クルーズターミナルから近く、市内からの移動距離が短い、「文化体験」と「都市観光、街歩き」の組み合わせが考えられるが、観光客への観光施設としての認知度が低い。
- (2) 展示内容の比較では、琉球村では古民家を活用し民族文化を体験できる。むら咲むらは、所在地である読谷村の歴史や伝統工芸などの文化を紹介している。沖縄空手会館は、博物館相当施設として空手に関する専門的な展示行い、多言語による音声案内や展示パネル、紹介映像のほか、ゲーム感覚の体験コーナーを設置するなど空手経験がない方にも楽しんでもらえるよう工夫しているが、空手家を対象とした「体育施設」との印象が強く、展示施設の存在が認知されていない。
- (3) 雨天対応では、琉球村は、一部にドーム型屋根が設置されており、雨天でも受入可能な全天候型施設となっているが、沖縄空手会館の屋外鍛錬上には屋根が設置されていない。
- (4) ソフト面として、文化体験プログラムでは、琉球村やむら咲むらでは、当日の申し込みが可能な工芸や芸能など多数のプログラムがある。沖縄空手会館では、当日申し込み可能なプログラムは少ないものの、事前相談により、広い道場施設を活用した柔軟な体験プログラムの提供が可能である。このほか、琉球村ではエイサーやミチジュネー、むら咲きむらではナイトイベントである「ランタンフェスタ」など観光客が参加できる定期的又は季節的なイベントがあるが、沖縄空手会館には観光資源となる定期的又は季節的なイベントがないことや、ホームページの多言語対応の不便さ、観光モデルコース等タビマエ情報が少ないことなど、他の2施設との比較ではソフト面の観光客の受入環境に弱い点がある。

## 施設1 【琉球村】 民営

### (1) 立地・アクセス

沖縄本島の北部の西海岸リゾート地に設置。空港からバスで1時間30分、「琉球村」バス亭あり。車では35km 最速52分。観光地としての認知度が高く、美ら海水族館等、他の観光地と組み合わせた観光バスツアーが毎日催行で募集されている。

### (2) 特徴

沖縄の昔ながらの雰囲気と伝統文化を体験できるテーマパーク。年間入場者数136万人(2016年)。沖縄各地から移設した100年以上前の古民家が並び、写真撮影にも適している。文化体験の種類は30種類以上。古民家で沖縄料理が楽しめる食堂や土産店もあり、無料エリアはドーム型の屋根があるため雨天でも楽しめる全天候型私設となっている。伝統行事である道ジュネーやエイサー等の定時公演有料の琉装体験やシーサー色つけ体験、ビーチサンダルにイラストを彫る島ぞうり彫り体験などがあり。出張公演や出張体験も実施。

### (3) 有料施設(営業時間9:30~17:00)

### (4) ホームページ 5言語対応 日本語、繁・簡体中国語、韓国語、英語

必要な情報にアクセスしやすい。また、幅広い年齢層の観光客向け、モデルコースや施設内の撮影ポイントをわかりやすく紹介している。

### (5) 展示

古民家や製糖風景、登り窯、水車小屋、高倉、フール(豚の飼育小屋)、神あしやぎ(拝所)などの建物自体が民族文化の展示施設となっている。

### (6) 空手に関しては、富裕層向けに「琉球王国時代の貴族の気分を味わえる食と芸能体験プラン」(有料)があり、伝統的な衣装や食事、動画撮影と中庭でプラン参加者だけに伝統芸能(空手演武)を鑑賞する商品がある。

## 施設2 【むら咲き村】 民営

### (1) 立地

沖縄県中部の西側リゾート地に設置。空港からバスで乗り換え1時間22分、「大当」バス亭から徒歩17分。空港リムジンバスで1時間23分「日航アリビラ」降車徒歩20分、車では33km 最速50分、

### (2) 特徴

年間約20万人の来訪者を誇る体験テーマパーク。約1万5千坪の敷地内には首里城周辺の武家屋敷など、15世紀の琉球王朝時代の町並みを再現。32箇所の体験工房を有し、乗馬やマリナクティブィを含め101種類もの体験メニューがある。毎年冬場の観光閑散期に開催する夜明かりプロジェクト「ランタンフェスティバル」には、県内外から4ヶ月で数万人が来場する恒例のイベントとなっている。施設の併設ホテルあり。

### (3) 有料施設(営業時間9:00~18:00)

### (4) ホームページ 5言語対応 日本語、繁・簡体中国語、韓国語、英語

幅広い年齢層の観光客向け、モデルコース、施設内の撮影ポイントをわかりやすく紹介している。

### (5) 展示

読谷村の伝統工芸品や人間国宝の作品などが展示されており、文化村として読谷村の歴史や文化を学べる。制作できるお土産を実際に手に取って選ぶことができる。

### (6) 空手に関するプログラム

施設内には「琉球武徳殿」があり、赤瓦屋根の道場で沖縄空手の「剛柔流、小林流、上地流」の各指導者から空手の基礎を教わることができる。(有料)

### 施設3 【沖縄空手会館】 公営

#### (1) 立地

沖縄県那覇市に隣接する豊見城市に設置。空港からバスで乗り換え 21 分、「豊見城城趾公演前」バス亭から徒歩 10 分。車では 5.4km 最速 12 分。

#### (2) 特徴

「空手発祥の地・沖縄」を国内外に発信する施設で、道場施設 (延床面積 5,917 m<sup>2</sup>)、展示施設 (1,803 m<sup>2</sup>)、特別道場 (90.72 m<sup>2</sup>) で構成される。展示施設では沖縄空手の歴史や流派、武具、鍛錬法などを学び、空手を体験することができる。資料の調査・研究は沖縄県空手振興課が行い。空手関係資料 35,863 点。蔵書約 5,200 冊、DVD350 点となっている。

施設の隣に、民営のコンドミニアムホテルがある。

#### (3) 有料施設 (9:00~18:00)

#### (4) ホームページ 3言語対応 日本語、英語、フランス語

※通常右上にある多言語切り替えボタンが画面の下部にあり、不便である。

#### (5) 展示

博物館相当施設。映像シアターで空手の歴史や流派についてわかりやすく解説。解説等の言語は、展示パネルは日英併記、壁面のタッチパネルは5カ国語 (日・英・仏・西・中)、映像は日英字幕、多言語音声ガイダンスは8カ国 (仏、西、露、独、中、伊、葡、韓) 対応である。常設展示室は有料。

#### (6) 体験プログラム

- ・瓦割り体験 (展示施設見学、空手着レンタル、認定証交付) 1日2回。(有料)
- ・空手体験プログラム (教育旅行やMICEの体験用) 100~120分 1人~ (100名以上も可能)  
沖縄空手会館内に事務所を構える (一社) 沖縄伝統空手道振興会と連携し、個人や学校や企業の要望に合わせて沖縄空手の「剛柔流、しょうりん流系、上地流、古武術、」の各指導者から空手の基礎を教える。約6千m<sup>2</sup>の広い道場施設を有するため、大人数での受入も可能。(有料)

## 3-2. 課題

沖縄空手会館展示施設を文化観光拠点として推進することについて、次の課題がある。

### 課題1 展示施設の機能強化に関する課題

#### (1) 常設展のマンネリ化と収蔵資料の有効活用

沖縄空手は口伝の文化であり、戦争で記録や写真が消失したため文献資料が少ないことから、開館当時は展示できる資料に限られていた。施設の共用開始後は、徐々に研究者や空手家の遺族等から資料が集まり、また、県が実施する流派研究事業、企画展、空手アカデミー (研究発表) での成果も蓄積されてきたため、これらの研究結果や資料を常設展に反映させ、リピーターの増加を図る必要がある。

しかしながら、展示改修の予算や学芸員の確保ができておらず、現在まで展示物の定期的な入れ替えや改修ができていない。

全国でも数少ない空手に特化した展示施設として、希少本や空手家の日記などを展示しているが、展示スペースが限られているため表紙や特定のページのみ展示している状況である。収集資料の有効活用や長期利用を図るほか、希少価値のある図書資料の内容を見られるようにするため、デジタルアーカイブ化に取り組む必要がある。

また、現在の展示内容は、沖縄空手の人物や流派、鍛錬法などに関する展示が多く、沖縄空手の琉球文化としての位置づけ、世界との関係など、沖縄空手の価値を相対化して伝えられていない。

これらの課題を解消する展示改修に当たっては、広く一般向けに、武術の知識がなくても空手の歴史や精神性が理解できる、わかりやすい展示であることと併せて、海外から来る空手経験者も満足できる



また、現在の空手体験メニューは、団体向けの「型」の指導が主で、個人向けのバリエーションが乏しい。沖縄空手会館は雨天時でも楽しめる施設であり需要もあるが、雨天時向けのプログラム開発が不十分なうえ、観光客への周知も不足している。さらに、富裕層の関心に応えられるようなハイコンテクトな体験がメニュー化できていないなどの課題がある。

#### (4) レストラン・ショップの満足度向上

沖縄空手会館に併設しているレストランにおいては、現在、空手そば、おにぎり、蒼いそば（バタフライ・ピー使用）、ぜんざい、三枚肉丼などを販売している。自家製麺の「空手そば」（結び昆布が黒帯を表現）が好評で、そばを目的とした来館者も多い。



レストランの販売額は、令和5年度に9,010千円と過去最高となったが、メニューが少なく、リピーターに向けた空手らしい新たな看板商品が不足している。常設展の新たな展示ストーリーとの関連や、商品開発に係る専門家の意見を踏まえ、沖縄空手を育んだ沖縄の伝統的な食文化や健康長寿を支える食材、地元の特産品などを用いた商品開発も検討する必要がある。

また、展示施設の観覧も含めた企業研修や大型会議などを誘致する上で、ケータリングサービス、天空の宴へのオリジナルメニュー開発等により更なる展開を図る必要がある。

また、沖縄空手会館展示施設内のショップは、コロナ禍の影響を受け令和4年度までは店舗を閉鎖しEコマースのみで対応していた。令和5年度以降、ショップ販売を再開し、空手グッズや空手会館でしか購入できない「瓦せんべい」の販売など売上げが伸びているところである。特に、海外の来館者が増えたことで、令和5年度のショップの販売額は、11,666千円と、過去最高となっている。販売額は好調に伸びているものの、現時点ではミュージアムへの来館記念となる、空手会館が所有している貴重な展示品等をモチーフとしたオリジナルグッズがない。常設展の新たな展示ストーリーとの関連や、商品開発に係る専門家の助言を踏まえ、来館者の来訪意欲を高める限定商品等を開発する必要がある。

このほか、近隣施設の「旧海軍司令部壕（海軍壕公園）」や「おきなわ工芸の杜」のショップと連携した共同でのグッズ開発を行うなど、相互送客及び来館者の満足度を高める取組を検討する必要がある。

### 課題3 沖縄空手会館展示室及び周辺施設の広報に関する課題

#### (1) 沖縄空手会館の集客に向けた広報活動強化

沖縄空手会館内に展示施設があることや、空手経験者でなくても楽しめる施設であることが周知されていない。共用開始直後は展示施設の来館者は1万人を超えていたが、来館者数は年々来減少傾向にあり、展示施設の磨き上げや賑わいづくりと併せて、情報発信の強化により来館者数を伸ばす必要がある。

現在、沖縄空手会館のホームページは、多言語の言語数が日本語、英語、フランス語と少なく、一般観光客の中国や韓国語に対応していないことや言語切り替えボタンの操作性が低いこと、案内や解説も十分ではないことなどの課題があり、大幅なリニューアルが必要である。

また、旅行商品として定着させるためには、情報発信者との効果的な発信方法についての意見交換が必要である。これらの意見交換や常設展の新たな展示ストーリーを踏まえた広報用映像の制作、国内の旅行博への出店、海外物産展等でのPR活動など、観光業界に向けた広報活動を強化していく必要がある。

このほか、意見交換を踏まえた個人旅行者向けの効果的な情報発信についても検討が必要である。

## (2) 近隣施設との連携

「空手」や「武術」に関心がない観光客等のライト層への情報発信が不足している。また、ファミリー層などの新たなターゲットの掘り起こしも不足しているため、近隣施設とも連携し多様な層へ発信する必要がある。他の博物館施設等と連携した企画展などについては、ホームページでの発信について、(一社) 沖縄伝統空手道振興会、(一財) 沖縄観光コンベンションビューロー、旧海軍司令部壕(海軍壕公園)、おきなわ工芸の杜、近隣施設と連携し、空手愛好者以外の層に届くよう周知し相互送客を促進する必要がある。

### 課題4 交通利便性の改善に関する課題

空手会館は空港や港から近い立地だが、直行のバスが少なく、空港や那覇市内からの移動に便利なモノレールについても、最寄駅から2.0キロ(徒歩26分、3千歩弱)の緩やかな上り坂となっているため利用されていない。

また、沖縄空手会館、旧海軍司令部壕(海軍壕公園)、おきなわ工芸の杜と、1キロ以内に3つの個性豊かな施設があるが、施設間の案内が不十分のため、周遊が行われていない。

バス・タクシー・モノレールの活用や、自転車や徒歩による移動を促す仕組みを検討する必要がある。

### 3-3. 文化観光拠点施設としての機能強化に向けて取組を強化すべき事項及び基本的な方向性

#### 取組強化事項1：展示施設の磨きあげ(課題1関連)

#### (1) 常設展示の更新(文化庁事業：県空手振興課、(一社) 沖縄伝統空手道振興会、沖縄空手振興ビジョン推進パートナーズ)

ア 空手の歴史や世界への広がり、文化的価値の理解を深めるための、武術経験者・未経験者、国内・外、年齢等の別を考慮したわかりやすい展示の工夫と来訪意欲と満足度を高める展示ストーリーの作成を行う。

※ 展示事業の専門家、歴史に詳しいライター、歴史、空手研究者、若手空手家、海外出身空手家等の意見を踏まえ、魅力ある展示ストーリーを検討する。

※ 当該展示ストーリーを踏まえて、空手をテーマに、徒歩圏内の施設、近隣の史跡、他の博物館の展示物を周遊させるサブストーリーを検討する。

※ 沖縄空手の歴史や民俗学的な理解を深めるため、新たな展示ストーリー及びサブストーリーを体験プログラム、レストラン・ショップ等の商品開発、広報強化の事業にも反映させる。

イ 既存の展示パネルの内容更新(最新の研究成果、収集資料の反映、表記の統一等)

ウ 沖縄空手会館展示施設に空手の歴史や流派に関する専門知識のある学芸員を確保し、常設展の更新作業や定期的な展示物の入れ替え、来館者の説明に対応する学芸員を確保する。

エ 常設展の展示に係る監修委員会を開催

#### (2) 沖縄空手資料デジタルアーカイブ事業(文化庁事業：県空手振興課、(一社) 沖縄伝統空手道振興会、沖縄空手振興ビジョン推進パートナーズ)

県は平成25年度から調査を行い、令和3年度末時点で行政機関及び個人所有の空手資料35,863点のリストを作成しているが、現時点で沖縄空手会館展示施設常設展に展示している資料は約140点である。展示施設のスペースの関係上、現在は一部しか展示できないため、今後、調査収集した古書、写真類が見られるよう収集資料、展示資料のデジタルアーカイブ化を図る。また、その際、デジタルデータの解説を多言語で行う。

## 取組強化事項2：受入体制強化、賑わいづくりと利用者の満足度向上（課題2関連）

### (1) 沖縄空手会館等案内ガイドの養成（文化庁事業：県空手振興課）

新たな展示ストーリー及びサブストーリーを基に、有償サービスとして多言語で案内できる人材を育成する。

ア 沖縄空手会館展示施設、工芸の杜、旧海軍司令部壕等の徒歩圏内施設の周遊

イ 沖縄空手会館、首里城、識名園、各地の顕彰碑等を回る空手の聖地巡礼

ウ 雨天時ルートとして、空手や空手を育んだ琉球文化をテーマとした近隣の博物館等施設の周遊

### (2) 屋外展示施設の整備（文化庁事業：県空手振興課）

屋外に屋根を整備し、雨天でも無形の文化である空手を解説付きで鑑賞できる屋外演武場を整備し、早朝、夜間の特別稽古やイベントにも活用する。

また、屋根付き屋外施設整備により、定期的な鑑賞会の開催のほか、近隣のホテルや旅行社等と連携し、朝や夜間の利用を活用した早朝空手教室、プロジェクションマッピング、ナイトミュージアム等、話題性のあるイベントを造成する。

### (3) 早朝夜間等におけるイベント開発事業（文化庁事業：県空手振興課、（一社）沖縄伝統空手道振興会、沖縄空手振興ビジョン推進パートナーズ、おきなわ工芸の杜共同企業体、（一財）沖縄観光コンベンションビューロー、沖縄JTB（株））

新たな展示ストーリー等を基に、ユニークメニューとして、特別道場前庭や屋外鍛錬場において、屋外で空手演武鑑賞や琉球芸能と飲食を組み合わせた、沖縄空手会館の看板となる早朝・ナイトコンテンツを造成する。

通常、展示施設は18時までだが、これらの期間はナイトミュージアムとして21時まで臨時に開館する。早朝、夜間のイベントの開催により来館者増や周辺宿泊施設の利用増の増加が期待できる。

### (4) 空手体験プログラム及び近隣3施設の連携による体験プログラムの企画（文化庁事業：県空手振興課、沖縄空手振興ビジョン推進パートナーズ、おきなわ工芸の杜共同企業体、（一財）沖縄観光コンベンションビューロー、沖縄JTB（株））

ア 沖縄空手体験メニューの企画（日常生活に取り入れる突き・蹴り等の基本動作、呼吸法の活用）

イ グループでの来館者が分散して参加できる体験・学習プログラムの企画

（各施設の資料室、展示室と空手・工芸体験や平和学習コース、）

ウ 沖縄空手の歴史や民俗学的な理解を深めるため、新たな常設展示のストーリー等を踏まえた体験プログラムの企画

エ 雨天時の文化施設巡りとして、空手や琉球文化をテーマとした工芸等の琉球文化に関連するミュージアムや文化施設を訪ねるガイドツアーやコンテンツの企画

沖縄空手を文化として育んだ琉球王国時代の歴史・民俗・伝統工芸・芸能・風景の他、古くから進貢船を用いてアジアと交易し、移民県として海外に移出した外国との交流の歴史など、空手の発祥と普及に関する理解をより深めるため、他の博物館の展示や収蔵品を巡るルートを企画することにより、博物館間の相互送客を図る。

オ 空手師範による特別な空手体験プログラムの企画

スポーツインストラクターのトレーニングとは異なる、熟練空手師範ならではの稽古を通じて、高度な技だけではなく、空手家の人生観や人材育成法に触れる特別な体験プログラムを企画する。

指導者の対応可能な範囲で実施。富裕層向けの少人数制とし、多言語での受入態勢も検討する。

カ 企業研修、MICEの誘致

**(4) 併設レストランでのメニュー開発（文化庁事業：県空手振興課、沖縄空手振興ビジョン推進パートナーズ）**

沖縄空手会館展示施設内のレストランでは、現在、結び昆布を黒帯に見立てた「空手そば」、涼しげな青色をしたバタフライ・ピーを練り込んだ「蒼い」冷そばを提供している。それぞれ好評であるが、常設展の新たな展示ストーリー等との関連や、商品開発に係る専門家の意見を踏まえ、さらに視覚的に「空手」が伝わる商品や伝統的な沖縄の食文化、長寿食材、地元の名産物等を提供することで、観光客等のライト層にも足を運んでもらい、施設の来館者増加及び満足度を高める。

**(6) ミュージアムショップ商品の充実及び3施設の共通の商品の物販（文化庁事業：県空手振興課、（一社）沖縄伝統空手道振興会、沖縄空手振興ビジョン推進パートナーズ、おきなわ工芸の杜共同企業体、（一財）沖縄観光コンベンションビューロー）**

常設展の新たな展示ストーリー等との関連や、商品開発に係る専門家の意見を踏まえ、沖縄空手会館指定管理者、沖縄伝統空手道振興会及びおきなわ工芸の杜指定管理者と連携し、空手家向けの工芸品や空手家以外の客層向けのミュージアムショップオリジナルグッズの開発を行う。また、各施設の主力商品を相互に販売するなど施設の魅力を向上させるとともに、来館者の満足度を高める。

**取組強化事項3：沖縄空手会館展示施設及び連携施設の広報の連携・充実（課題3関連）**

**(1) HP及び広報誌等での広報の強化（文化庁事業：空手振興課、（一社）沖縄伝統空手道振興会、沖縄空手振興ビジョン推進パートナーズ、おきなわ工芸の杜共同企業体、（一財）沖縄観光コンベンションビューロー、沖縄JTB（株）**

沖縄空手会館及び（一社）沖縄伝統空手道振興会のホームページは、多言語対応が不十分であり、海外からの来訪者の利便性を向上させるための改修を行う必要がある。

旅行者向けには、沖縄空手会館展示施設、旧海軍司令部壕（海軍壕公園）資料室、おきなわ工芸の杜展示室について、情報発信者との意見交換や常設展の新たな展示ストーリー等を踏まえた広報用映像の制作、国内の旅行博への出店、海外物産展等でのPR活動などの広報活動を行う。

このほか、個人旅行者向けの効果的な情報発信については、旅行業界等との意見交換を踏まえ、魅力的な個人旅行用周遊モデルルートや施設の体験記事などを作成し、観光客が利用するWEBサイト等へ掲載する。

また、イベント等の情報発信については、（一社）沖縄県空手道振興会、（一財）沖縄観光コンベンションセンター、旧海軍司令部壕（海軍壕公園）、おきなわ工芸の杜等のホームページにおいても発信する。

**取組強化事項4：文化拠点施設の交通利便性向上（課題4関連）**

**(1) 沖縄空手会館と近隣施設への周遊を促す案内版の設置（文化庁事業：県空手振興課）**

沖縄空手会館、旧海軍司令部壕、おきなわ工芸の杜は徒歩移動可能な狭いエリア内に点在しており、3施設をグループで周遊し、又は分散して文化、工芸、平和の3つの体験をすることが可能である。

沖縄空手会館周辺を豊見城市が城跡地公園やガイドンス施設を整備中であり、今後は園内を自転車や徒歩で散策する者が増加すると見込まれるため、案内版が必要である。

モノレール最寄駅からの自転車・徒歩での移動や3施設の周遊・城跡公園内の散策を促すため、位置関係、歩数及びキロ数を記した案内版を設置する。

案内版には歩数とキロ数を表示することで健康・エコ意識の高い方を沖縄空手会館に誘導し周遊施設へ周遊させる効果が期待される。

**(2) 展示施設巡回バスの運行実証（文化庁事業：県空手振興課）**

家族や友人などの小グループと一緒に周遊するだけでなく、各個人がそれぞれ関心のある展示室の見学や空手・工芸体験、平和学習コースへ分散して参加ができるよう、夏休み期間（8月）及び空手の日の月（10月）、沖縄空手会館企画展開催期間、おきなわ工芸の杜のクラフト展等に奥武山公園駅前のバス停と3施設を巡回するバスの運行を実施する。

**(2) 3施設巡回用シェアサイクルポートの導入（文化庁事業：沖縄空手振興ビジョン推進パートナーズ、おきなわ工芸の杜共同企業体、（一財）沖縄観光コンベンションビューロー、沖縄JTB（株））**

3施設でのシェアサイクルの整備家族や友人などの小グループがそれぞれ関心のある体験メニューに参加できるような参加を促進するため、上記(1)の特定期間のバスの運行のほか、3施設にサイクルポートを整備し、自転車での施設間移動を可能とする。

**(5) 自転車及び徒歩による散策の促進・マップの作成（文化庁事業：県空手振興課、沖縄空手振興ビジョン推進パートナーズ、おきなわ工芸の杜共同企業体、（一財）沖縄観光コンベンションビューロー）**

最寄の奥武山公園前駅から自転車や徒歩ならではの旅の魅力を伝えるモデルルートマップや散策体験記事を作成し、各施設のホームページや旅行関係のWEBサイトに掲載する。

**3-4. 地域における文化観光の推進への貢献**

**【 「空手の聖地」、「空手発祥の地」をテーマとした空手ツーリズムの展開 】**

沖縄県では、琉球王国時代から培われてきた伝統文化や芸能、伝統行事、工芸品等が各地域で脈々と受け継がれ現代の暮らしの中に息づいており、独自の文化が訪れた人々を癒し、魅力ある観光地を作り出している。「琉球王国のグスク及び関連遺産群」、「組踊」、沖縄発祥の「空手」は、他の地域にはない沖縄ならではの観光コンテンツとされている。

沖縄伝統文化の中でも「Karate」は最も世界に親しまれている文化で、翻訳不要で全世界共通の単語となっている。世界での「Karate」の知名度を活かし、空手の聖地（沖縄空手会館）で空手の歴史を学び、文化体験として体験プログラムに参加することを目的とする空手ツーリズムの認知度を上げることで、将来的には国内外から多くの観光客が沖縄空手会館を訪れることが期待される。

本計画で展示施設の魅力を向上させるとともに、「空手の聖地での文化体験」の受入体制整備、広報の充実を図ることにより、空港や那覇市内との近さを活かした都市型旅行の推進や、中北部のリゾート地・世界文化遺産と組合せたツアー商品の造成につなげ、観光振興に寄与する。

**3-5. 文化の振興を起点とした、観光の振興、地域の活性化の好循環の創出**

沖縄空手会館が文化観光拠点として来館者数が伸び、空手体験プログラムや看板となるイベント、演武鑑賞会、施設内のレストラン・ショップの収益増を、空手会館の運営や展示・体験コンテンツの充実に向けた再投資として活用できるようになり、更なる来館者の増や満足度の増に繋がる。それにより、観光の振興と地域の文化振興の活性化の好循環が創出される。

また、県外・海外の人々から地域の文化の価値を承認されることにより、文化の担い手である空手家が誇りを持って次の世代に伝統文化を継承し、将来にわたって伝統文化の保存・継承が図られることとなる。地域での文化の存続は、沖縄のソフトパワーとしての観光資源の存続につながり、裾野が広い観光産業では、ホテル、飲食業、建設業、交通産業、土産品の製造業、販売業などに幅広い分野に持続的な経済波及効果が期待される。

#### 4. 目標

##### 目標①：空手会館展示施設の来館者数の増加（課題2、3、4関連、取組強化事項2、3、4関連）

###### （目標値の設定の考え方及び把握方法）

本計画による目標を、有料施設である沖縄空手会館展示施設の来館者数の増加とし、同来館者数によって把握する。

基準値の考え方は、新型コロナウイルス感染症の影響前で、共用開始後、来館者数が落ち着いてきた時期を用いることとし、令和元年度の10,989人を基準とする。

令和2年度から令和5年度まではコロナ禍の影響で観覧者数が減少しているが、本県の入域観光客数の見込みにおいて、令和6年度には一般観光客が回復する見込みであることから、「第2期沖縄空手振興ビジョンロードマップ」においても、令和6年度にコロナ禍前の11,000人となることを見込んでいる。令和6年度及び令和7年度は「第2期沖縄空手振興ビジョンロードマップ」の計画値を用い、令和7年度には常設展示ストーリーづくり等に取り組むことで観覧者数の更なる増加が見込まれることから、令和8年度から令和10年度までは「第2期沖縄空手振興ビジョンロードマップ」の計画値を上回る対前年度の約15%の伸び率を見込み、計画最終年度である令和10年度には20,400人（1.9倍）、10年後の令和15年度には32,700人（3.0倍）を目指す。

年度	実績		目標				
	元年	5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年
目標値	10,989人	7,551人	11,000人	13,500人	15,500人	17,800人	20,400人
事業1—③： 夜間早朝等におけるイベント開発事業			・事業企画	・事業企画	・企画・監修会議 ・イベント造成 ・広報事業	・企画・監修会議 ・イベント造成 ・広報事業	・自走化
事業3—①： 展示施設巡回バス利用促進運行事業			・事業企画	・事業企画	・運行実施 ・利用状況分析	・運行実施	・自走化
事業3—②： 自転車等利用促進事業			・事業企画	・展示ストーリー等を踏まえた周遊ルート作成 ・シェアサイクルポートの設置	（ホームページへの掲載）	（ホームページへの掲載）	（ホームページへの掲載）

事業5-②： 展示施設広報強化事業			<ul style="list-style-type: none"> <li>・内閣府事業：沖縄空手アカデミー（空手歴史研究発表）特別企画の開催（外国人向け英語通訳付）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展示ストーリー等と連携した広報</li> <li>・旅博・物産展派遣</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展示ストーリー等と連携した広報</li> <li>・旅博・物産展派遣</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展示ストーリー等と連携した広報</li> <li>・旅博・物産展派遣</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展示ストーリー等と連携した広報</li> <li>・旅博・物産展派遣</li> </ul>
事業6-③： 案内看板設置事業			<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業企画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周遊ルートを踏まえた内容検討（3-②事業関係）</li> <li>・案内看板設置</li> </ul>	(維持管理)	(維持管理)	(維持管理)

目標②：展示施設の外国人来館者数の増（課題1、2、3関連、取組強化事項1、2、3関連）

（目標値の設定の考え方及び把握方法）

有料施設である沖縄空手会館展示室への外国人来館者については、沖縄空手会館指定管理者月報により把握する。今後は、多言語ガイド等の養成による受入環境強化や広報等の充実に取り組み、展示施設来館者目標値の25%の受入を目指す。

目標①の有料施設の観覧者数の基準値の考え方と同様に、直近の実績値である令和元年を基準とし、計画最終年度の令和10年度までに5,100人（1.7倍）、10年後の令和15年度には8,175人（2.7倍）を目指す。

年度	実績		目標				
	元年	5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年
目標値	3,042人	2,730人	2,750人	3,375人	3,875人	4,450人	5,100人
事業2-②： 多言語展示ガイド養成事業			・事業企画	・事業企画	・事業企画	・展示ストーリー等を踏まえた養成事業の実施	・展示ストーリー等を踏まえた養成事業の実施
事業2-③： 沖縄空手展示解説多言語化事業			・事業企画	・展示解説に対する意見交換 ・解説作成計画の検討	・展示資料、デジタルアーカイブ及び広報資料の解説作成	・展示資料、デジタルアーカイブ及び広報資料の解説作成	・展示資料、デジタルアーカイブ及び広報資料の解説作成
事業2-④： 多言語音声ガイダンス検討事業			・事業企画	・監修会議	(運用)	(運用)	(運用)
事業5-①： ホームページの多言語改修事業			・事業企画	・外国人利用者の利便性向上のためのホームページ改修	(運用)	・展示ストーリー等と連携した発信情報の多言語化	(運用)
事業6-④： 多言語音声ガイダンス及びWi-Fi整備事業			・事業企画	・詳細内容検討（2-④事業関連） ・音声ガイダンス機材整備 ・Wi-Fi設置工事	(運用)	・(運用)	(運用)

目標③：展示施設の満足度向上（課題1関連、取組強化事項1関連）

（目標値の設定の考え方及び把握方法）

本計画による目標を、沖縄空手会館施設利用者アンケートの展示資料の満足度とする。令和3年度は、感染症の影響により展示の一部、体験型の展示コーナーを閉鎖したため、最上位の評価である「大変良い」が46.2%と低い状況であった。令和4年度は再開したため、最上位の評価である「大変良い」が67.7%、「良い」が25.8%、「普通」が6.5%、「悪い」、「大変悪い」はゼロ%となっている。

令和4年を基準とし令和6年度から伸び率1%ずつ高め、令和令和10年度には73.0%を目指し、令和12年度に75%、以後は同水準を維持する。

また、団体での展示施設利用者については、グループインタビュー等の双方向でのコミュニケーションがとれる形で意見聴取を行い、事業に反映することで満足度の向上を図る。

年度	実績		目標				
	3年度	4年度	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年
目標値	46.2	67.7%	68.7%	70.0%	71.0%	72.0%	73.0%
事業1-①： 常設展示等更新事業			・事業企画	・学芸員の確保 ・監修会議 ・日本語解説作成	・学芸員の確保・ ・監修会議 ・展示物入替 ・日本語解説作成	・学芸員の確保 ・監修会議 ・展示物入替 ・日本語解説作成	・学芸員の確保 ・監修会議 ・展示物入替 ・日本語解説作成
事業1-② 常設展示等ストーリーづくり事業			・事業企画	・常設展示ストーリー等の検討 ・他事業への反映	・ストーリー等のブラッシュアップ ・他事業への反映	(事業への反映)	(事業への反映)
事業2-①： 沖縄空手デジタルアーカイブ事業			・事業企画	・展示施設紹介WEBページの作成 ・収蔵資料の整理・デジタル化	・収蔵資料の整理・デジタル化 ・WEB掲載	・収蔵資料の整理・デジタル化 ・WEB掲載	・収蔵資料の整理・デジタル化 ・WEB掲載
事業6-①： 常設展示パネル等設置工事事業			・事業企画	・展示企画 (1-①事業関係)	・展示企画 (1-①事業関係)	・展示パネル実施設計 ・設置工事	・体験コーナー実施設計 ・設置工事

目標④：レストラン・ショップの売上額増加（課題2関連、取組強化事項2関連）

（目標値の設定の考え方及び把握方法）

本計画による目標を、沖縄空手会館施設利用者アンケートのレストラン及びショップの販売額とする。コロナ禍前は1千万円前後であったが、令和2年～4年まではEコマースを中心に物販の売上げを伸ばし、令和5年度には店舗での販売を再開したことにより過去最高の販売額となった。基準値は令和5年度実績値とし、令和6年及び令和7年度に商品開発を行うため微増の2～3%の伸び率とし、商品の自走化及び来館者数の増加により、令和8年度以降は毎年10%の販売額増を見込み、令和10年度には28,914千円（令和5年度の1.4倍）、令和15年度には46,566千円（令和5年度の2.3倍）まで伸ばす。

年度	実績		目標				
	4年	5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年
目標値	13,218千円	20,677千円	21,091千円	21,723千円	23,895千円	26,285千円	28,914千円
事業4—①： レストランメニュー開発 事業			・企画・研究開発	・常設展示ストーリー 等を踏まえた商品 企画 ・専門家派遣	・常設展示ストーリー 等を踏まえた商品 企画 ・専門家派遣	・自走化	・自走化
事業4—②： ミュージアムショップグ ッズ開発事業	—	—	・企画・研究開発	・常設展示ストーリー 等を踏まえた商品 企画 ・専門家派遣	・常設展示ストーリー 等を踏まえた商品 企画 ・専門家派遣	・自走化	・自走化

目標⑤：体験プログラム参加者数の増加（課題2関連、取組強化事項2関連）

（目標値の設定の考え方及び把握方法）

本計画による目標を、沖縄空手会館において有料で行う沖縄空手体験プログラム及び瓦割り体験等の体験メニューの参加者数とする。既存の初心者向け体験プログラムや令和4年度以降開始した瓦割り体験者が増加しており、令和5年度実績は538名となっている。本計画において、人気商品である瓦割り体験に必要なレンタル空手着の購入や、空手未経験者が空手に触れる体験プログラムを造成することにより、令和5年度実績538人を基準値とし、計画初年度の令和6年度は約10%増とし、造成したプログラムの稼働及び広報効果により令和7年度は50%増、以後はイベント開発や施設整備により毎年対前年10%の増加を見込み令和10年度には1,200名（令和5年度の2.2倍）を見込む。以後も広報効果により年10%の増加とし令和15年度は1,930名（3.6倍）を目指す。

年度	実績		目標				
	4年	5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年
目標値	118人	538人	600人	900人	990人	1,090人	1,200人
事業1—④： 沖縄空手体験プログラム 等造成事業			・企画・造成	・常設展示ストーリー 等を踏まえた商品 企画 ・専門家派遣 ・空手着・武具購入 ・広報	・常設展示ストーリー 等を踏まえた商品 企画 ・専門家派遣 ・広報	・常設展示ストーリー 等を踏まえた商品 企画 ・専門家派遣 ・広報	・自走化
事業6—②： 屋外展示施設の屋根整備 事業			・事業企画	・常設展示ストーリー 等を踏まえた事業 企画 (1—③・④)	・設計 ・施設整備工事 ・供用開始	・運用（一般への供用、 1—③夜間・早朝イ ベントや1—④体 験プログラムへの 活用)	・運用（一般への供用、 1—③夜間・早朝イ ベントや1—④体 験プログラムへの 活用)

## 5. 目標の達成状況の評価

目標の達成度については、来館者数については4月末に指定管理者から提出される年次報告、アンケート結果については7月に提出されるセルフモニタリング資料で把握する。各年度の事業評価については、部内の観光所管課及び文化所管課、沖縄観光コンベンションビューロー等で構成する沖縄県文化観光拠点推進委員会を設置（事務局：空手振興課）し、事業実績を元に実施状況を評価し、より効果的な事業実施に向けて検討した結果を次年度以降の事業計画に反映する。

また、各事業の実績については空手振興課でとりまとめ、文化観光推進事業者へ情報共有を図り、随時意見交換を行うほか、豊見城城跡地地利活用ワーキンググループとの意見交換の場を設け、各年の社会情勢、観光客の動向、観光部署の新規事業情報等も踏まえ、目標達成に向け臨機応変に対応していく。

## 文化資源保存活用施設

### 6-1. 主要な文化資源についての解説・紹介の状況

#### 6-1-1. 現状の取組

##### ・文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介（施行規則第1条第1項第1号）

沖縄県においては、平成26年度から沖縄空手に関する歴史、流派の型の研究、資料の調査・収集を行っており、沖縄空手展示施設の共用開始に合わせ、平成29年3月に常設展示を開始（以後、大幅改修なし）、平成29年以降現在まで毎年テーマを変えた企画展示を実施している。展示パネルは全て日英併記としている。また、令和4年度から県内市町村の博物館等と連携した巡回展を開催している。

常設展示及び企画展示は、空手に関する専門的な内容が多く、国内外の空手の熟練者や研究者には満足いただいている一方で、一般来館者は少ない。一般への認知度向上と来館者の増加に向け、沖縄空手会館の指定管理者とともに取り組んでいるところである。

##### ・情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第2号）

沖縄空手に関しては、文化観光推進事業者である沖縄空手ビジョン推進パートナーズ（沖縄空手会館指定管理者）及び（一社）沖縄伝統空手道振興会のホームページ等を通じて発信しているが、多言語での解説・紹介は不十分である。また、展示施設の専用WEBサイトがなく、展示施設では限られた展示スペースで多くの収蔵資料を紹介し、より理解しやすい演示を行うには、資料のデジタルアーカイブ化及び展示施設専用WEBページが必要であるが、現時点では未着手となっている。

##### ・外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第3号）

展示資料や映像資料の字幕については、日英表記を基本としている。

空手会館の展示施設については、9カ国語の案内リーフレットを配付しているほか、映像資料について8カ国語の多言語音声ガイダンスを整備したが、経年劣化で機器が使用できなくなり、令和5年度の下半期は提供を中止している。英語圏以外の来館者も多いため、改修が必要となっている。

## 6-1-2. 本計画における取組

### ・文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介（施行規則第1条第1項第1号）

沖縄空手に関する歴史、流派の型の研究、資料の調査・収集を行い、開館以降に整備した収蔵品や研究成果を反映した常設展示の改修を行う。

また、「空手発祥の地・沖縄」の認知度を向上させ、空手の文化的価値を知ってもらうためには、これまで武術に関心がなかった層にも足を運んでもらえるよう展示内容を工夫する必要がある。このため、常設展示の基本となるストーリーを作成し、当該ストーリー作りの過程で、さらにテーマを深掘したサブストーリーを複数展開し、沖縄空手会館での体験プログラムのほか、空手や琉球文化に触れるガイドツアー、レストランメニュー・ショップ商品、イベント企画にも反映させ、天候に左右されない沖縄観光の一つとしての定着を目指す。

### ・情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第2号）

沖縄空手に関して情報を配信している沖縄空手ビジョン推進パートナーズ（沖縄空手会館指定管理者）及び（一社）沖縄伝統空手道振興会のホームページ等の多言語対応を充実させる。また、現在、本や日記の表紙のみ演示している貴重な資料について、収蔵資料のデジタルアーカイブ化を行い、より幅広い情報が来館者に提供できるように取り組む。デジタルデータは、館内での演示や展示施設専用WEBページ等における公開に使用し、多言語での解説・紹介を行っていく。

### ・外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第3号）

常設展示の基本ストーリー等を基に、通訳案内士や沖縄空手ガイド等を対象とした研修を実施し、近隣3施設（沖縄空手会館、おきなわ工芸の杜、旧海軍司令部壕）の展示施設、空手の聖地巡礼、沖縄文化に触れる近隣の博物館・文化施設巡り等を多言語で解説するガイドを養成するとともに、音声ガイドダンス機器の改修を行い、受入環境を向上させる。

## 6-2. 施行規則第1条第2項第1号の文化観光推進事業者との連携

### 6-2-1. 現状の取組

#### ・文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築

豊見城市城跡地連絡協議会において豊見城市、（一社）豊見城市観光協会、地元自治会、周辺近隣施設との情報交換を行っている。また、国の事業で設置した空手ツーリズム推進協議会との情報交換を行っている。

#### ・文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析

沖縄県観光要覧や新聞報道・WEB等からの情報収集を行うとともに、指定管理者や関係団体からのヒアリング等により現状分析を行っている。

#### ・文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びKPIの設定・PDCAサイクルの確立

沖縄21世紀ビジョンや沖縄空手振興ビジョンロードマップで定められた指標について、各推進主体で翌年度にPDCAを行っている。

## 6-2-2. 本計画における取組

### ・文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築

豊見城城跡地利活用ワーキンググループにおいて豊見城市、豊見城市観光協会、地元自治会、周辺近隣施設との情報交換を始めている。また、国の事業で設置した空手ツーリズム推進協議会との情報交換に加え、DMOである（一財）沖縄観光コンベンションビューローや（一社）豊見城市観光協会とも広報面で連携していく。

### ・文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析

沖縄県観光要覧や新聞報道・WEB等からの情報収集に加え、沖縄県観光振興課や（一財）沖縄観光コンベンションビューローとも観光のトレンドについて情報交換を行い、データの整理及び分析を行う。また、沖縄空手会館においても利用者アンケートや団体利用者へのヒアリング等を行い、ニーズの整理・分析を行っていく。

### ・文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びKPIの設定・PDCAサイクルの確立

各年度の事業評価については、毎年7月末までに空手振興課でとりまとめた結果を部内の観光所管課及び文化所管課、（一財）沖縄観光コンベンションビューロー等で構成する沖縄県文化観光拠点推進委員会を設置（事務局：空手振興課）し、事業実績を元に実施状況を評価する。また、取組内容について、豊見城城跡地利活用ワーキンググループや空手ツーリズム推進協議会で報告、意見交換を行う。これらの意見を踏まえ、事業内容の見直し、ブラッシュアップを行いながら推進する。

## 6-3. 施行規則第1条第2項第2号の文化観光推進事業者との連携

### 6-3-1. 現状の取組

#### ・文化観光を推進するための交通アクセスの充実や商店街を含めた賑わいづくりなど、文化観光の推進に関する事業の企画・実施

沖縄県からの指定管理者の指定を受けている沖縄空手振興ビジョン推進パートナーズにおいて、隣接する民間のコンドミニウムホテルとの割引価格の設定（沖縄空手会館のホームページからの予約で100円引き）により連携を行っているほか、令和5年度から豊見城市の事業により、沖縄空手会館の駐車場にカーシェア（2台）設置を行っている。また、モノレール駅や豊見城市内の中央部及び西海岸側の主要施設にシェアサイクルのポートの設置が進んでいる。

また、県及び文化観光推進事業者は、豊見城城跡地利活用ワーキンググループの構成員である豊見城市字豊見城の自治会が作成する散策用のマップ（紙）について情報共有及び配布を行っている。

### 6-3-2. 本計画における取組

#### ・文化観光を推進するための交通アクセスの充実や商店街を含めた賑わいづくりなど、文化観光の推進に関する事業の企画・実施

常設展示の基本ストーリー等を踏まえ、空手や空手を育んだ琉球文化を体験するガイドツアーや体験プログラムを造成するため、文化観光拠点推進事業者が連携して取り組むとともに、交通アクセスの充実のため、豊見城市内を運行するバス会社と連携し、那覇市内・豊見城市内の施設を結ぶシャトルバスの運行、文化観光拠点推進事業者の各施設へのシェアサイクルポートの導入や自転車用のルートマップの作成及びホームページへの掲載を実施する。

また、沖縄空手会館、旧海軍司令部壕（海軍壕公園）、おきなわ工芸の杜への賑わいづくりとして、地域と連携した定期的又は季節的なイベントや夜間・早朝等のイベントを企画し、近隣ホテルへの宿泊者増、地元飲食店の出店や周辺への周遊など、地域の活性化に取り組む。

7. 文化観光拠点施設機能強化事業

7-1. 事業の内容

7-1-1. 文化資源の魅力の増進に関する事業

事業番号 1-①

事業名	常設展示等更新事業
事業内容	<p>常設展示は、共用開始からこれまで展示替えを行っていない。開館 10 周年を目前に、これまでに収集した収藏品や研究成果を整理し、観覧者の増加に向けた展示内容の改修を行う。</p> <p>改修の方向性については、空手経験者はもとより、空手の経験がない方にも空手の価値を伝え、興味を持ってもらえるよう、「常設展示等ストーリーづくり事業」（事業 1-②）と連携したわかりやすい展示を目指す。沖縄空手の歴史的背景、祭りや祭事に溶け込んだ生活文化としての沖縄空手、世界への広がりなどの紹介を加えるなど、幅広い層を対象に、展示パネル、展示物、体験コーナー機器の一部を改修する。</p> <p>このため、本事業においては、歴史や空手の専門家を交え、展示物の監修委員会の開催と、展示業務を推進する学芸員の確保、日本語解説原稿の作成を行う。</p> <p>令和 7 年度及び令和 8 年度は展示パネル等の大幅な改修に向け、監修委員会や部会を開催する。また、令和 9 年度以降は、常設展示の展示資料（図書や武具等のモノ資料）の定期的な入替えとそれに伴う日本語解説の作成、デジタル化資料の日本語解説の作成、新規収藏品の整理等を行い、これらの業務を通じて空手を専門とする学芸員の育成を図る。</p> <p>&lt;常設展パネルのテーマ（例）&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 沖縄空手の位置づけを紹介する導入的な解説</li> <li>・ 琉球国時代の琉球の文化や武術に関する記録             <ul style="list-style-type: none"> <li>（1867 年王家別邸「御茶屋御殿（うちややうどうん）」での士族による空手演武</li> <li>（御冠船踊り（うかんしんおどり：冊封使をもてなす踊り）の参加者と空手家）</li> </ul> </li> <li>・ 琉球舞踊と空手（武の舞、所作等）</li> <li>・ 移民県ならではの歴史・移民先での生活と県系人のアイデンティティを支える沖縄文</li> </ul> <p>化としての空手</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 空手の大衆化と現代の町道場（県内 360 道場の分布）の役割</li> <li>・ 地域の伝統行事・祭り・祭りに生きる空手の民族学的調査結果</li> <li>・ 学校での授業、祝いの席での演武など生活に溶け込んで継承される空手</li> <li>・ 空手着の変遷（琉球国時代から現在まで）</li> <li>・ 沖縄空手が平和の武といわれる背景の解説</li> </ul> <p>&lt;体験コーナーの一部改修（例）&gt;</p> <p>現在、「体験コーナー」に 2 台ある 3D スコープは、現代の空手家の空手・古武道の「型」演武を 3D で見せる実写映像としており、重鎮の型をじっくり見たいという玄人向けの内容となっている。2 台のうち 1 台に既存の映像をまとめ、他の 1 台はライト層向けの映像に改修する。同じ「型」映像でも、背景については三国時代に始まり、琉球国時代、明治時代、戦中、戦後、アメリカ統治下時代、日本復帰、現代と様々な時代における稽古場の変遷を反映し、人物については士族の服から上半身裸の時代、</p>

	柔道をまねた空手着が出始め、現代の改良された空手着へと稽古着が変遷する様子を反映するなど、時代が遷り変わる中、空手の型がそのまま受け継がれていることを伝える3D映像とする。
実施主体	沖縄県（空手振興課）、（一社）沖縄伝統空手道振興会、沖縄空手振興ビジョン推進パートナーズ
実施時期	令和7年度～令和10年度
継続見込	上記実施期間後は、一般財源で対応する。
アウトプット目標	展示施設の満足度向上
必要資金調達方法	34.5百万円（内訳：11.6百万円（一般財源）22.9百万円（文化観光推進事業費補助金）） ※国の予算が記載のとおり調達できない場合は、自己資金による対応を検討する。

事業番号1-②)

事業名	常設展示等ストーリーづくり事業
事業内容	<p>現在の常設展の展示内容は、沖縄空手の人物や流派、鍛錬法などに関するものが多く、空手家向けの専門的な内容となっている。</p> <p>沖縄空手の歴史的背景や文化的価値をわかりやすく解説し、国内外の子どもからお年寄りまで多くの方に関心を持ってもらうため、常設展示の柱となる基本ストーリーづくりを行う。</p> <p>また、当該基本ストーリーの作成と併せて、空手をテーマとする歴史的又は文化的なサブストーリーを作成し、プログラム造成や周遊ルート開発等に活用することより、本計画における多岐にわたる事業コンセプトの統一を図る。</p> <p>&lt;ストーリーの作成&gt;</p> <p>令和7年度及び令和8年度にストーリーを作成する。</p> <p>沖縄空手の相対的な価値を伝えるため、発信力のあるライターなどの専門家を交えた検討委員会を開催する。沖縄空手会館及び沖縄空手について、わかりやすく魅力ある展示ストーリーを検討する。また、サブストーリーについては必要に応じて部会を設けて検討する。</p> <p>&lt;検討委員会の委員の構成案&gt;</p> <p>展示事業の専門家、歴史に精通したライター、歴史又は空手研究者、若手・熟練空手家、県外・海外出身空手家、文化的施設のイベント演出家、他施設の学芸員等</p> <p>&lt;常設展示ストーリー及びサブストーリーの事業への活用例&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 展示解説への活用</li> <li>2 首里城や那覇市内の空手のゆかりの地など「空手の聖地巡礼」等のほか、他の博物館等文化施設との共同企画や外ディングなど有効な手法の検討</li> <li>3 雨天時の観光ガイドツアーや体験プログラムの企画</li> <li>4 徒歩圏内の施設の周遊ルートの企画、1～3のルートの多言語ガイド養成</li> <li>5 初心者等幅広い対象への空手体験プログラムの企画</li> <li>6 沖縄空手会館のレストランメニューやミュージアムグッズの企画</li> <li>7 広報・情報発信等</li> </ol>

実施主体	沖縄県（空手振興課）、（一社）沖縄伝統空手道振興会、沖縄空手振興ビジョン推進パートナーズ
実施時期	令和7年度～令和10年度
継続見込	上記実施期間後は、一般財源で対応する。
アウトプット目標	展示施設の満足度向上
必要資金調達方法	20.0百万円（内訳：6.7百万円（一般財源）13.3百万円（文化観光推進事業費補助金）） ※国の予算が記載のとおり調達できない場合は、自己資金による対応を検討する。

（事業番号1-③）

事業名	夜間早朝等におけるイベント開発事業
事業内容	<p>常設展示の基本ストーリー等（事業1-②関係）を踏まえ、ユニークベニューとして、特別道場前庭や屋外鍛錬場において、屋外で空手演武鑑賞や琉球芸能と飲食を組み合わせた早朝のイベントやナイトコンテンツを造成する。</p> <p>ナイトミュージアムの開催で観覧者数を伸ばす効果があるほか、早朝、夜間のイベントの開催により、交流人口増や周辺宿泊施設の利用増の増加が期待できる。</p> <p>例） &lt;例&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【空手ナイト】 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 月夜に屋外で空手や伝統芸能を鑑賞するイベント。近隣ホテル・モノレール駅を周遊するバスを運行し、ナイトミュージアムと連携して解説付きの演武会を開催する。</li> <li>② 琉球国時代から現代までの【歴史絵巻】をプロジェクションマッピングで紹介。</li> </ul> </li> <li>・【（仮称）琉球レビュー・空手ガーデン】 <p>沖縄の伝統文化である琉球舞踊や空手の礼儀、動作、型の見どころ、流派毎の動作のちがいなどの解説を加えた演出を行う。</p> </li> <li>・【空手パーク】 <p>一般の観光客に向けて、沖縄空手会館の敷地内を【空手パーク】等として発信</p> </li> <li>・【空手ウィーク・空手フェスティバル】 <p>空手世界大会（8月）、空手の日（10月）を含む週を空手ウィークと設定し、海外・県外からの来訪者を迎え、近隣施設や地元の飲食産業と連携し、空手フェスティバルを開催する。</p> </li> <li>・【早朝の城趾散策と屋外鍛錬場での特別稽古又は健康空手】 <p>近隣ホテル宿泊者、朝の時間を活用したい観光客へのメニュー提供</p> </li> <li>・【天空の宴】の定期開催 <p>夕暮れから夜間にかけて、空手会館特別道場前庭にてジャズや沖縄伝統音楽と飲食を組み合わせたディナー会の定期開催</p> </li> </ul>
実施主体	沖縄県（空手振興課）、（一社）沖縄伝統空手道振興会、沖縄空手振興ビジョン推進パートナーズ、おきなわ工芸の杜共同企業体、（一財）沖縄観光コンベンションビューロー、沖縄JTB（株）
実施時期	令和8年度及び令和9年度
継続見込	事業期間後は、鑑賞券チケット収入等の収益によって自走化する
アウトプット	空手会館展示施設の来館者数の増加

目標	
必要資金 調達方法	8百万円(内訳:2.8百万円(一般財源) 5.2百万円(文化観光推進事業費補助金)) ※国の予算が記載のとおり調達できない場合は、自己資金による対応を検討する。

事業番号1-④)

事業名	沖縄空手体験プログラム等造成事業
事業内容	<p>常設展示の基本ストーリー等(事業1-②関係)を踏まえ、空手経験者だけでなく、空手未経験者の社会人、ファミリー層、若年層、学生などを対象に、空手を通じて琉球の歴史や文化に触れられるプログラムを造成する。</p> <p>&lt;例&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄空手体験とゆかりの地を巡る沖縄空手聖地巡礼ガイドツアー等          ※周遊先の例(首里城、識名園等の空手にゆかりのある景勝地・史跡、空手拳聖らの顕彰碑、墓石等)</li> <li>・空手や琉球文化をテーマとした、博物館等の文化施設との連携企画等          ※連携先の例(沖縄空手会館、県立博物館・美術館、国立組踊劇場、那覇市歴史博物館、那覇市壺屋焼博物館等)</li> <li>・徒歩や自転車で周遊できる周辺施設と連携した体験プログラム          ※周遊先の例(沖縄空手会館、おきなわ工芸の杜、旧海軍司令部壕(旧海軍壕公園、ハーリー発祥の地碑、真朱(まだま)道史跡等)</li> <li>・健康空手講座、護身空手講座、マインドフルネス講座、</li> <li>・琉球文化や空手の歴史・流派解説プログラム(学芸員解説)</li> <li>・修学旅行・自由研究用、空手の歴史と体験講座(学芸員解説)</li> <li>・空手着・武具を用いた空手体験とフォトセッション</li> <li>・富裕層・少人数向け、熟練指導者による特別プログラム</li> </ul> <p>例えば、空手の高段者だけではなく、企業の経営者や人材育成担当者等に対し、道場での稽古中の教えや稽古後のお茶の時間に、人生のマスターである熟練空手指導者との「会話」を通じて、人生観や人材育成の実践哲学に触れる特別な体験プログラムを造成する。</p> <p>※礼に始まる道場での礼儀作法、鍛錬の心構え、体の使い方、先代から受け継いだ理念・格言、空手の歴史、拳聖らの伝説的なエピソード、長年の修行で培われた平常心や忍耐強さ、若い門下生、子供たちとの向き合い方、人としての成長など、道場での師弟関係を体験できる特別なプログラム。</p>
実施主体	沖縄県(空手振興課)、空手振興課、(一社)沖縄伝統空手道振興会、沖縄空手振興ビジョン推進パートナーズ、おきなわ工芸の杜共同企業体、(一財)沖縄観光コンベンションビューロー、沖縄JTB(株)
実施時期	令和6年度～令和9年度
継続見込	上記期間終了後は事業主体において自走化する。
アウトプット 目標	体験プログラム参加者数の増加
必要資金 調達方法	7.1百万円(内訳:2.5百万円(一般財源及び自己財源)4.7百万円(文化観光推進事業費補助金)) ※国の予算が記載のとおり調達できない場合は、自己資金による対応を検討する。

7-1-2. 情報通信技術を活用した展示、外国語による情報の提供その他の国内外からの観光旅客が文化についての理解を深めることに資する措置に関する事業

(事業番号2-①)

事業名	沖縄空手デジタルアーカイブ事業
事業内容	<p>調査収集した古書、写真類が見られるよう収蔵資料、展示資料のデジタルアーカイブ化を図る。</p> <p>令和7年度は、展示施設専用のWEBページを作成し、令和8年度から10年度まで、高名な空手家のゆかりの品や歴史的資料、日記、希少本、音声データ等のデジタル化、目録作成、WEBページへの掲載を行う。</p> <p>※ WEBページに掲載する資料のキャプションについては、1-①の「常設展示等更新事業」で日本語原稿を作成し、2-③「沖縄空手展示解説多言語化事業」で多言語解説を作成する。</p> <p>※ なお、多言語化は、観光庁の指針である「How to 多言語解説文整備」に沿って行う。</p>
実施主体	沖縄県（空手振興課）、（一社）沖縄伝統空手道振興会、沖縄空手振興ビジョン推進パートナーズ
実施時期	令和7年度～令和10年度
継続見込	上記実施期間終了後は一般税源で実施する。
アウトプット目標	展示施設の満足度向上
必要資金調達方法	18.0百万円（内訳：6.1百万円（一般財源）11.9百万円（文化観光推進事業費補助金）） ※国の予算が記載のとおり調達できない場合は、自己資金による対応を検討する。

(事業番号2-②)

事業名	多言語展示ガイド養成事業
事業内容	<p>常設展示の基本ストーリー等（事業1-②関係）を踏まえ、空手会館の近隣施設や空手の聖地巡礼等のツアーを案内できるよう、通訳案内士や沖縄空手ガイドに対する研修を行い、多言語対応（英語、スペイン語、中国語等）の有償ガイドを養成する。</p> <p>令和7年度及び8年度に作成した展示ストーリーや周遊ルートの造成を踏まえ、令和9年度から2年間、座学及びフィールドワークによる養成講座を実施する。</p> <p>※ 30名/年×2年＝ 計画期間中に60名の養成を目指す。</p>
実施主体	沖縄県（空手振興課）
実施時期	令和9年度及び令和10年度
継続見込	養成後は登録し有償ガイドとして活動する。
アウトプット目標	展示施設の外国人来館者数の増
必要資金調達方法	12.0百万円（内訳：4百万円（一般財源）8百万円（文化観光推進事業費補助金）） ※国の予算が記載のとおり調達できない場合は、自己資金による対応を検討する。

## (事業番号2-③)

事業名	沖縄空手展示解説多言語化事業
事業内容	<p>常設展示やデジタルアーカイブで整備した資料の解説を多言語で行う。</p> <p>解説作成に当たっては、日本語解説の翻訳ではなく、海外の方の視点を通して日本文化、沖縄の文化に親しんでもらうような解説を作成することとする。</p> <p>令和7年度は、外国人ライターとの意見交換を通じて沖縄県において事業実施方針を作成し、令和8年度以降、常設展示、デジタル化した資料等の多言語解説を作成する。</p> <p>※ なお、多言語化は、観光庁の指針である「How to 多言語解説文整備」に沿って行う。</p>
実施主体	沖縄県（空手振興課）
実施時期	令和7年度～令和10年度
継続見込	上記実施期間終了後は一般財源で継続する。
アウトプット 目標	展示施設の外国人来館者数の増
必要資金 調達方法	29.0百万円（内訳：9.8百万円（一般財源）19.2百万円（文化観光推進事業費補助金）） ※国の予算が記載のとおり調達できない場合は、自己資金による対応を検討する。

## (事業番号2-④)

事業名	多言語音声ガイドランス検討事業
事業内容	<p>開館直後に整備した映像シアターの音声ガイドランスは、専用機器を貸与して多言語で提供する仕組みであるが、コロナ禍後、需要が戻ってきた頃から多くの端末が故障していることが判明し、端末も旧式となり在庫がないことから新たな仕組みの導入を検討する必要がある。</p> <p>このため、展示施設内にWi-Fiを整備するとともに、スマートフォンで音声を受信する仕組みを検討する。</p> <p>本事業においては、複数の導入事例を調査し、監修会議を開催する。</p> <p>※ なお、多言語化は、観光庁の指針である「How to 多言語解説文整備」に沿って行う。</p>
実施主体	沖縄県（空手振興課）
実施時期	令和7年度
継続見込	導入後は一般財源にて維持管理する。
アウトプット 目標	展示施設の外国人来館者数の増
必要資金 調達方法	1.0百万円（内訳：0.4百万円（一般財源）0.6百万円（文化観光推進事業費補助金）） ※国の予算が記載のとおり調達できない場合は、自己資金による対応を検討する。

7-1-3. 国内外からの観光旅客の移動の利便の増進その他の文化資源保存活用施設の利用に係る文化観光に関する利便の増進に関する事業

(事業番号3-①)

事業名	展示施設巡回バス利用促進事業
事業内容	夏休みの週末や10月25日空手の日、工芸クラフト展等のイベント開催時、ナイトイベント等開催に沖縄空手会館、沖縄工芸の杜、旧海軍司令部壕の展示施設を巡回するバスを運用する。初年度は無料走行し利用者数データを収集、2年目は初年度の状況を踏まえて運行計画を作成、1区間100円又は1日券を発行し、事業期間終了後は自走化を目指す。※豊見城市内の路線バス会社と連携して実施する。
実施主体	沖縄県（空手振興課）
実施時期	令和8年度及び令和9年度
継続見込	上記の期間後は、自走化する。
アウトプット目標	空手会館展示施設の来館者数の増加
必要資金調達方法	3.0百万円（内訳：1.1百万円（一般財源）1.9百万円（文化観光推進事業費補助金）） ※国の予算が記載のとおり調達できない場合は、自己資金による対応を検討する。

(事業番号3-②)

事業名	自転車等利用促進事業
事業内容	<p>モノレール駅等からの徒歩又は自転車による移動を促進するため、駅から沖縄空手会館までの周遊モデルルートを作成する。ルートの作成に当たっては、常設展示の基本ストーリーや等（事業1-②関係）を踏まえ、徒歩圏内にある旧海軍司令部壕跡（海軍壕公園）やおきなわ工芸の杜、ハーリー（爬龍船）発祥の地、真珠道（まだまみち、琉球国時代の防衛のための道路）跡、近くの飲食店などの場所や移動時間などの情報をホームページ等に掲載する。また、近隣施設間の往来のためのシェアサイクルポートを導入し自転車の利用を促進する。</p> <p>&lt;例&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>空手会館付近の小禄泉原郵便局では、令和5年6月9日から空手の風景印（消印）を作成し、希望者には、窓口で郵便物に押印している。那覇市小禄地区や豊見城市内の郵便局では、それぞれオリジナルデザインの風景印（消印）を作成しており、自転車でのご当地の郵便局巡りにより、旅行記念の風景印の収集が可能である。</li> </ul>
実施主体	沖縄県（空手振興課）、沖縄空手振興ビジョン推進パートナーズ、おきなわ工芸の杜共同管理者、（一財）沖縄観光コンベンションビューロー
実施時期	令和7年度
継続見込	事業期間終了後は各施設のホームページに掲載し、適時更新する。
アウトプット目標	空手会館展示施設の来館者数の増加
必要資金調達方法	1.5百万円（内訳：0.5百万円（一般財源及び自己財源）1.0百万円（文化観光推進事業費補助金））



※国の予算が記載のとおり調達できない場合は、自己資金による対応を検討する。

7-1-4. 文化資源に関する工芸品、食品その他の物品の販売又は提供に関する事業

(事業番号4-①)

事業名	レストランメニュー開発事業
事業内容	<p>沖縄空手会館展示施設内のレストランでは結び昆布を黒帯に見立てた「空手そば」が看板商品となっているが、常設展示の基本ストーリー等（事業1-②関係）を踏まえ、「空手」が伝わる新たな看板商品を提供することで、観光客等のライト層にも足を運んでもらい、施設の来館者増加及び売上増を図る。</p> <p>本事業においては、商品やネーミング等について専門家の助言を受けるほか、沖縄県産業振興公社等と連携し金型などの料理器具を製作する製造業者とのマッチングを行い、開発商品をホームページやSNSで広告する。</p> <p>&lt;例&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・常設展示の基本ストーリー等を踏まえた新たなメニュー</li> <li>・空手らしいメニューのネーミング</li> <li>・昔ながらの製法で作っている近隣の島豆腐を用いた長寿食メニュー</li> <li>・豊見城市特産品（島野菜、トマト、マンゴー等）を使ったメニュー</li> <li>・空手着模様のかまぼこ、黒帯カレー等の開発</li> </ul>
実施主体	沖縄県（空手振興課）、空手振興ビジョン推進パートナーズ
実施時期	令和6度～令和8度
継続見込	上記の実施期間後は自走化する。
アウトプット 目標	レストラン・ショップの売上額増加
必要資金 調達方法	<p>2.1百万円（内訳：0.8百万円（一般財源及び自己財源）1.3百万円（文化観光推進事業費補助金））</p> <p>※国の予算が記載のとおり調達できない場合は、自己資金による対応を検討する。</p>

(事業番号4-②)

事業名	ミュージアムショップグッズ開発事業
事業内容	<p>常設展示の基本ストーリーやサブストーリー（事業1-②関係）を踏まえ、沖縄空手会館展示施設の施設で収蔵・展示している貴重なモノ資料をモチーフとしたミュージアムショップのオリジナルグッズを作成する。本事業においては、専門家の助言を受けるほか、沖縄県産業振興公社等と連携し製造業者とのマッチング等を行い、開発商品をホームページやSNSで広告する。専門家の助言を受け企画する費用に充てる。</p> <p>また、近隣施設と連携したオリジナルグッズの開発を行い、収益増を図る。</p> <p>&lt;例&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・常設展示の基本ストーリー等を踏まえた新たな商品</li> <li>・空手道着・沖縄独自の武具（棒、トンファー、ヌンチャク、エーク、ティンバー・ローチン等）や鍛錬具（瓶、チーシ、サーシ等）をモチーフとしたハンコ、キーホルダー、マグネット、付箋紙、メモ帳等</li> </ul>
実施主体	沖縄県（空手振興課）、（一社）沖縄伝統空手道振興会、沖縄空手ビジョン推進パートナーズ、おきなわ工芸の杜共同企業体、（一財）沖縄観光コンベンションビューロー

実施時期	令和6度～令和8年度
継続見込	上記実施期間後は自走化する。
アウトプット 目標	レストラン・ショップの売上額増加
必要資金 調達方法	2.1 百万円（内訳：0.8 百万円（一般財源及び自己財源）1.3 百万円（文化観光推進事業費補助金）） ※国の予算が記載のとおり調達できない場合は、自己資金による対応を検討する。

#### 7-1-5. 国内外における文化資源保存活用施設の宣伝に関する事業

##### （事業番号5-①）

事業名	ホームページの多言語改修事業
事業内容	沖縄空手会館及び（一社）沖縄伝統空手道振興会のHPは、多言語対応が不十分であり、海外からの利用者の利便性向上のため、改修を行う必要がある。 また、常設展示の基本ストーリー等（事業1-②関係）を踏まえ、必要な情報発信を行うための改修を行う。
実施主体	沖縄県（空手振興課）、（一社）沖縄伝統空手道振興会、沖縄空手ビジョン推進パートナーズ
実施時期	令和7年度及び令和9年度
継続見込	上記の実施期間終了後も自主事業で継続実施する。
アウトプット 目標	展示施設の外国人来館者数の増
必要資金 調達方法	6.0 百万円（内訳：2.0 百万円（一般財源）4.0 百万円（文化観光推進事業費補助金）） ※国の予算が記載のとおり調達できない場合は、自己資金による対応を検討する。

##### （事業番号5-②）

事業名	展示施設広報強化事業
事業内容	常設展示の基本ストーリー等（事業1-②関係）を踏まえ、沖縄空手の文化的価値を伝える映像、体験記事、周遊ルート等を作成し、旅行会社や個人旅行者へ発信する。 また、旅行博や物産展において沖縄空手の魅力や沖縄空手会館での体験メニューを情報発信することにより、来館に繋げる。 <例> ・沖縄空手の文化的価値を伝える映像・写真素材の作成 ・お勧めサイト等と連携した、個人旅行者向けの沖縄空手体験記の発信 ・旅行会社やホテルなど、観光業界への情報発信 ・物産展・旅行博での空手演武及びPRブースの設置
実施主体	沖縄県（空手振興課等）、（一社）沖縄伝統空手道振興会、沖縄空手振興ビジョン推進パートナーズ、おきなわ工芸の杜共同企業体、沖縄観光コンベンションビューロー、沖縄JTB（株）
実施時期	令和6年度～令和10年度
継続見込	上記の実施期間終了後は一般財源又は自主事業で継続実施する。
アウトプット	空手会館展示施設の来館者数の増加

目標	
必要資金 調達方法	16.0 百万円（内訳：5.3 百万円（一般財源）9.9 百万円（文化観光推進事業費補助金） 0.8 百万円（内閣府補助金） ※国の予算が記載のとおり調達できない場合は、自己資金による対応を検討する。

7-1-6. 7-1-1～7-1-5 の事業に必要な施設又は設備の整備に関する事業

（事業番号6-①）

事業名	常設展展示パネル等設置工事業
事業内容	常設展の展示の増設について、既存の展示パネルの改修及び追加をするための展示工事を実施する。既存の設置パネルの情報更新、中央の体験コーナー外側にある円形の壁面に、空手が単なる武術ではなく地域の伝統行事・伝統芸能と密接に関わっていることについてのパネル、県内約 360 道場の分布図などを加える。 令和7年度及び8年度は、「常設展示等改修事業」（事業1-①）において展示計画及び展示設計を作成し、当該計画等を基に、本事業において、令和9年には展示パネルの制作、設置工事及び展示ケースの整備を行い、令和10年度は体験装置の制作を行う。
実施主体	沖縄県（空手振興課）
実施時期	令和9年度及び令和10年度
継続見込	上記実施期間終了後は一般財源で維持管理する。
アウトプット 目標	展示施設の満足度向上
必要資金 調達方法	39.0 百万円（内訳：13.0 百万円（一般財源）26.0 百万円（文化観光推進事業費補助金） ※国の予算が記載のとおり調達できない場合は、自己資金による対応を検討する。

（事業番号6-②）

事業名	屋外施設への屋根付整備事業
事業内容	雨天や日中の強い日差しを避けるため、屋外鍛錬上に屋根を設置し、常設展示の基本ストーリー等を踏まえ、「夜間早朝等におけるイベント開発事業」（事業1-③）「沖縄空手体験プログラム造成事業」（事業1-④）での演武鑑賞会や賑わいづくりイベント、早朝空手体験プログラムの開催等に活用する。現在、活用頻度が低い屋外鍛錬場の有効利用と、空港から近い強みを生かし、雨天時の観光客受け入れ施設として誘客増を図る。
実施主体	沖縄県（空手振興課）
実施時期	令和8年度
継続見込	上記実施期間終了後は一般財源で維持管理する。
アウトプット 目標	体験プログラム参加者数の増加
必要資金 調達方法	30.0 百万円（内訳：10.0 百万円（一般財源）20.0 百万円（文化観光推進事業費補助金） ※国の予算が記載のとおり調達できない場合は、自己資金による対応を検討する。

（事業番号6-③）

事業名	案内看板設置事業
事業内容	<p>「自転車等利用促進事業」(事業3-②)において作成した周遊モデルルートについて、徒歩圏内3施設の位置関係を表示し、自転車・徒歩での周遊を促すことを目的に、案内図・看板を設置する。</p> <p>沖縄空手会館周辺の敷地内には、豊見城市が城跡地公園等を整備中であり、公園周辺の周遊を促すための案内版を設置することにより、空手会館周辺への観光客等の増加を図る。</p> <p>&lt;案内版の例&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モノレール最寄駅からの自転車・徒歩での移動や3施設の位置関係を示して周遊・城跡公園内の散策を促すため、方向、歩数(目安)及びキロ数を記した案内版を設置する。</li> <li>●沖縄空手会館→おきなわ工芸の杜 片道距離300m(徒歩5分、自動車1分) 往復歩数目安 約1,000歩</li> <li>●沖縄空手会館→旧海軍司令部壕 片道距離1.0Km(徒歩15分、自動車6分) 往復歩数目安 約3,000歩</li> <li>●沖縄空手会館→奥武山公園駅前駅 片道距離2.0Km(徒歩26分、自転車8分) (最寄り駅) 往復徒歩目安 約5,200歩</li> </ul>
実施主体	沖縄県(空手振興課)
実施時期	令和7年度
継続見込	上記実施期間終了後は一般財源で維持管理する。
アウトプット 目標	空手会館展示施設の来館者数の増加
必要資金 調達方法	1.5百万円(内訳:0.5百万円(一般財源)1.0百万円(文化観光推進事業費補助金)) ※国の予算が記載のとおり調達できない場合は、自己資金による対応を検討する。

(事業番号6-④)

事業名	多言語音声ガイダンス及びWi-Fi整備事業
事業内容	令和7年度に「多言語音声ガイダンス検討事業」(事業2-④)において監修会議を開催し、同年度に、本事業において、映像シアターで利用している多言語音声ガイダンスの機器とともに、Wi-Fi環境を整備する。
実施主体	沖縄県(空手振興課)
実施時期	令和7年度
継続見込	上記実施期間終了後は一般財源で維持管理する。
アウトプット 目標	展示施設の外国人来館者数の増
必要資金 調達方法	6.0百万円(内訳:2.0百万円(一般財源)4.0百万円(文化観光推進事業費補助金)) ※国の予算が記載のとおり調達できない場合は、自己資金による対応を検討する。

## 7-2. 特別の措置に関する事項

### 7-2-1. 必要とする特例措置の内容

なし

### 7-3. 必要な資金の額及び調達方法

	総事業費	事業番号	所要資金額	内訳
令和6年度	1.3 百万円	事業番号1-④	0.1 百万円	0.1 百万円 (自己資金)
		事業番号4-①	0.1 百万円	0.1 百万円 (自己資金)
		事業番号4-②	0.1 百万円	0.1 百万円 (自己資金)
		事業番号5-②	1.0 百万円	0.2 百万円 (一般財源) 0.8 百万円 (内閣府補助金)
令和7年度	50.5 百万円	事業番号1-①	14.5 百万円	4.9 百万円(一般財源) 9.6 百万円(文化観光推進事業費補助金(文化庁))
		事業番号1-②	12.0 百万円	4.0 百万円(一般財源) 8.0 百万円(文化観光推進事業費補助金(文化庁))
		事業番号1-④	3.0 百万円	1.0 百万円(一般財源) 2.0 百万円(文化観光推進事業費補助金(文化庁))
		事業番号2-①	3.0 百万円	1.0 百万円(一般財源) 2.0 百万円(文化観光推進事業費補助金(文化庁))
		事業番号2-③	1.0 百万円	0.4 百万円(一般財源) 0.6 百万円(文化観光推進事業費補助金(文化庁))
		事業番号2-④	1.0 百万円	0.4 百万円(一般財源) 0.6 百万円(文化観光推進事業費補助金(文化庁))
		事業番号3-②	1.5 百万円	0.5 百万円(一般財源) 1.0 百万円(文化観光推進事業費補助金(文化庁))
		事業番号4-①	0.5 百万円	0.2 百万円(一般財源) 0.3 百万円(文化観光推進事業費補助金(文化庁))
		事業番号4-②	0.5 百万円	0.2 百万円(一般財源) 0.3 百万円(文化観光推進事業費補助金(文化庁))
		事業番号5-①	3.0 百万円	1.0 百万円(一般財源) 2.0 百万円(文化観光推進事業費補助金(文化庁))
		事業番号5-②	3.0 百万円	1.0 百万円(一般財源) 2.0 百万円(文化観光推進事業費補助金(文化庁))
		事業番号6-③	1.5 百万円	0.5 百万円(一般財源及び自己資金) 1.0 百万円(文化観光推進事業費補助金(文化庁))
		事業番号6-④	6.0 百万円	2.0 百万円(一般財源) 4.0 百万円(文化観光推進事業費補助金(文化庁))
令和8年度	75.0 百万円	事業番号1-①	8.0 百万円	2.7 百万円(一般財源) 5.3 百万円(文化観光推進事業費補助金(文化庁))
		事業番号1-②	8.0 百万円	2.7 百万円(一般財源) 5.3 百万円(文化観光推進事業費補助金(文化庁))
		事業番号1-③	4.0 百万円	1.4 百万円(一般財源) 2.6 百万円(文化観光推進事業費補助金(文化庁))
		事業番号1-④	2.0 百万円	0.7 百万円(一般財源) 1.3 百万円(文化観光推進事業費補助金(文化庁))
		事業番号2-①	5.0 百万円	1.7 百万円(一般財源) 3.3 百万円(文化観光推進事業費補助金(文化庁))
		事業番号2-③	10.0 百万円	3.4 百万円(一般財源) 6.6 百万円(文化観光推進事業費補助金(文化庁))
		事業番号3-①	2.0 百万円	0.7 百万円(一般財源) 1.3 百万円(文化観光推進事業費補助金(文化庁))
		事業番号4-①	1.5 百万円	0.5 百万円(一般財源) 1.0 百万円(文化観光推進事業費補助金(文化庁))
		事業番号4-②	1.5 百万円	0.5 百万円(一般財源) 1.0 百万円(文化観光推進事業費補助金(文化庁))
		事業番号5-②	3.0 百万円	1.0 百万円(一般財源) 2.0 百万円(文化観光推進事業費補助金(文化庁))
		事業番号6-②	30.0 百万円	10.0 百万円(一般財源) 20.0 百万円(文化観光推進事業費補助金(文化庁))
令和9年度	70.0 百万円	事業番号1-①	6.0 百万円	2.0 百万円(一般財源) 4.0 百万円(文化観光推進事業費補助金(文化庁))
		事業番号1-③	4.0 百万円	1.4 百万円(一般財源) 2.6 百万円(文化観光推進事業費補助金(文化庁))
		事業番号1-④	2.0 百万円	0.7 百万円(一般財源) 1.3 百万円(文化観光推進事業費補助金(文化庁))

		事業番号2-①	5.0百万円	1.7百万円(一般財源)	3.3百万円(文化観光推進事業費補助金(文化庁))
		事業番号2-②	6.0百万円	2.0百万円(一般財源)	4.0百万円(文化観光推進事業費補助金(文化庁))
		事業番号2-③	9.0百万円	3.0百万円(一般財源)	6.0百万円(文化観光推進事業費補助金(文化庁))
		事業番号3-①	1.0百万円	0.4百万円(一般財源)	0.6百万円(文化観光推進事業費補助金(文化庁))
		事業番号5-①	3.0百万円	1.0百万円(一般財源)	2.0百万円(文化観光推進事業費補助金(文化庁))
		事業番号5-②	4.0百万円	1.4百万円(一般財源)	2.6百万円(文化観光推進事業費補助金(文化庁))
		事業番号6-①	30.0百万円	10.0百万円(一般財源)	20.0百万円(文化観光推進事業費補助金(文化庁))
令和10年度	40.0百万円	事業番号1-①	6.0百万円	2.0百万円(一般財源)	4.0百万円(文化観光推進事業費補助金(文化庁))
		事業番号2-①	5.0百万円	1.7百万円(一般財源)	3.3百万円(文化観光推進事業費補助金(文化庁))
		事業番号2-②	6.0百万円	2.0百万円(一般財源)	4.0百万円(文化観光推進事業費補助金(文化庁))
		事業番号2-③	9.0百万円	3.0百万円(一般財源)	6.0百万円(文化観光推進事業費補助金(文化庁))
		事業番号5-②	5.0百万円	1.7百万円(一般財源)	3.3百万円(文化観光推進事業費補助金(文化庁))
		事業番号6-①	9.0百万円	3.0百万円(一般財源)	6.0百万円(文化観光推進事業費補助金(文化庁))
合計	236.8百万円				

## 8. 計画期間

令和6年度～令和10年度